秋田県文化財調査報告書第259集

遺跡詳細分布調査報告書

１９９５・３

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

１９９５・３

秋田県教育委員会

序

秋田県には4,000を数える遺跡が知られており、大地に刻まれた歴史資料として多くの埋蔵文化財が受け継がれてきております。これらは先人から託された文化遺産であり、損なうことなく未来へと受け継がれるべきものであります。

近年、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行なわれ、埋蔵文化財の保護との調和を図ることが急務となってきております。遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査はそのための基礎となるものであります。

本報告書は平成６年度国庫補助事業として実施した、一般国道13号湯沢横手道路建設事業・県道能代五城目線豊岡バイパス建設事業・県営ほ場整備事業北川目地区などの遺跡分布調査と、東北横断自動車道遠野秋田線建設事業・森吉山ダム建設事業・県道木戸石鷹巣線建設事業・県営ほ場整備事業琴丘地区などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。

最後になりましたが、これらの調査にご協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご協力下さいますようお願い申し上げます。

平成７年３月

秋田県教育委員会
教育長　橋　本　顕　信

例　　言

1　本報告書は平成６年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の報告書である。

2　本報告書に記載の遺跡分布調査・範囲確認調査は主に秋田県教育庁文化課・秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は各調査担当者が作成したものを秋田県埋蔵文化財センターが編集した。

3　遺跡分布調査のうち、県営ほ場整備事業豊岩地区・大屋地区ふるさと農道建設事業・県営ほ場整備事業駒場南地区・県営ほ場整備事業琴丘地区は、調査の結果事業区内に遺跡が確認されなかったので本報告から除外した。また一般国道13号湯沢横手道路建設事業・県道能代五城目線豊岡バイパス建設事業・長面地区農免農道建設事業は、後日試掘調査により再度遺跡の有無を確認する必要があるため本報告から除外した。

4　遺跡範囲確認調査のうち、開拓地整備事業三ツ森地区に係る足田遺跡は調査の結果、調査区内で遺構などが確認されなかったため本報告から除外した。

5　本報告書に使用した地図は、秋田県教育委員会発行の『秋田県遺跡地図』（県南版・中央版・県北版）、建設省国土地理院発行50,000分の１および25,000分の１地形図と、日本道路公団・建設省・秋田県土木部・秋田県農政部が作製した1,000分の１地形図である。

目　　次

序
例言
目次
第１章　はじめに…… 1
第２章　平成６年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項…… 1
　第１節　遺跡分布調査…… 1
　第２節　遺跡範囲確認調査…… 3
第３章　調査の記録…… 5
　第１節　遺跡分布調査…… 5
　　１　県営ほ場整備事業北川目地区…… 5
　　２　県営ほ場整備事業茂内地区…… 6
　　３　県営ほ場整備事業船戸地区…… 7
　第２節　遺跡範囲確認調査…… 8
　　１　東北横断自動車道遠野秋田線建設事業
　　戸平川遺跡…… 8
　　２　森吉山ダム建設事業
　　（1）桐内Ⅰ遺跡、桐内Ⅱ遺跡……16
　　（2）桐内沢遺跡……24
　　３　一般国道７号琴丘能代道路建設事業
　　扇田谷地遺跡……30
　　４　県道木戸石鷹巣線建設事業
　　伊勢堂岱遺跡……38
　　５　県営ほ場整備事業琴丘地区
　　泉沢中台遺跡……47

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した平成６年度の遺跡詳細分布調査は、一般国道13号湯沢横手道路建設事業・県道能代五城目線豊岡バイパス建設事業・大屋地区ふるさと農道建設事業・長面地区農免農道建設事業・県営ほ場整備事業豊岩地区・県営ほ場整備事業北川目地区・県営ほ場整備事業駒場南地区・県営ほ場整備事業茂内地区・県営ほ場整備事業琴丘地区・県営ほ場整備事業船戸地区の遺跡分布調査と、東北横断自動車道遠野秋田線建設事業・一般国道７号琴丘能代道路建設事業・森吉山ダム建設事業・県道木戸石鷹巣線建設事業・県営ほ場整備事業琴丘地区・開拓地整備事業三ツ森地区に係る遺跡範囲確認調査である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センターの職員、それに大館市、仙北町および琴丘町の専門職員の協力を得て、平成６年４月から平成７年１月にかけて実施したものである。

第２章　平成６年度遺跡分布調査･遺跡範囲確認調査実施要項

第１節　遺跡分布調査

１　調査の目的

開発予定地内を踏査して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を構ずる。

２　調査の方法

(1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。

(2) 確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。

(3) 遺跡の現況、遠景を写真記録し、遺跡の概要も記録する。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県教育庁文化課　　学芸主事　　熊谷太郎

大館市教育委員会生涯学習課	文化係長	板橋範芳
仙北町教育委員会	払田柵跡環境整備係長	小西秀典
琴丘町教育委員会生涯学習課	主事	木村将来

５　調査対象地域および事業名

	事　業　名	調 査 期 間	調査結果等
1	県営ほ場整備事業 豊岩地区	平成６年４月20日	本年度調査区域内に遺跡は確認されなかった。
2	県営ほ場整備事業 北川目地区	平成６年４月26日～27日、 11月17日	本年度調査区域内に新発見の遺跡１箇所確認。
3	一般国道13号湯沢横手道路建設事業	平成６年７月15日	計画路線内に遺跡可能地４箇所あり。後日試掘により有無を確認。
4	大屋地区ふるさと農道建設事業	平成６年７月29日、 12月16日	事業区内に周知の遺跡が２箇所位置しているが、調査の結果計画路線内に遺跡は確認されなかった。
5	県道能代五城目線豊岡バイパス建設事業	平成６年９月14日	計画路線内に遺跡可能地あり。後日試掘により有無を確認。
6	長面地区農免農道建設事業	平成６年９月20日	計画路線内に遺跡可能地あり。後日試掘により有無を確認。
7	県営ほ場整備事業 駒場南地区	平成６年11月７日	本年度調査区域内に遺跡は確認されなかった。
8	県営ほ場整備事業 茂内地区	平成６年11月24日、 12月８日、 ７年１月９日	本年度調査区域内に新発見の遺跡１箇所確認。
9	県営ほ場整備事業 琴丘地区	平成６年12月14日、 ７年１月17日	本年度調査区域内に遺跡は確認されなかった。
10	県営ほ場整備事業 船戸地区	平成６年10月31日、 ７年１月25日	本年度調査区域内に周知の遺跡１箇所を確認。

第２節　遺跡範囲確認調査

１　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して、埋蔵文化財の保護と保存を図る。

２　調査の方法

（1）遺跡の広がり、埋没の度合、時代とその性格を知るために、当該地域で遺物の表面採集および小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行なう。

（2）地形等を考慮し、できるかぎり面的に調査地域を広げて遺構の確認に努める。

（3）現場で確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録を行なう。その際、遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは写真撮影をする。

（4）使用する地形図は開発部局で作製した一番大きな縮尺図面とする。

（5）遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

３　事業主体者

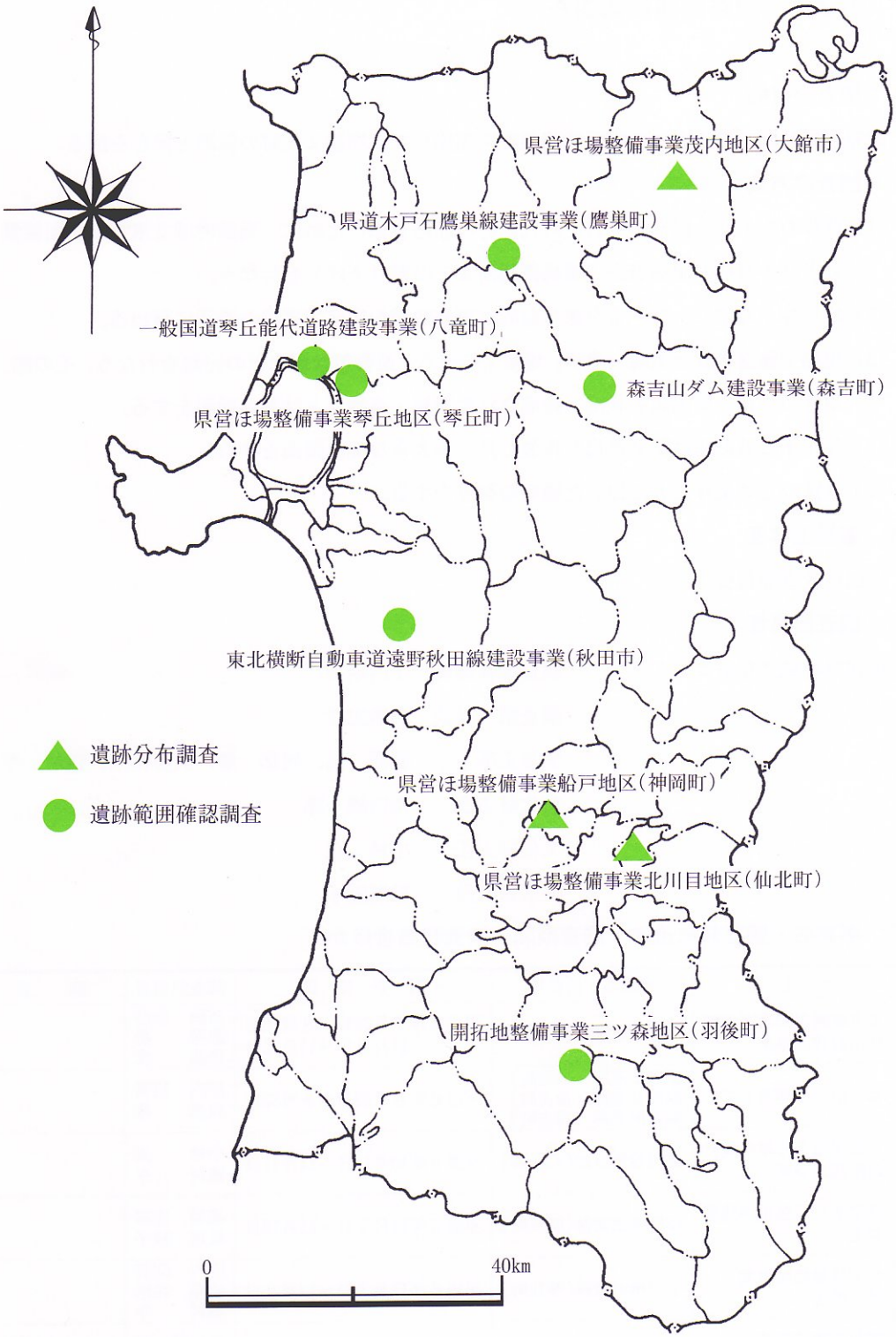
秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター　　調査課長補佐　庄内昭男
調査第一科長　高橋忠彦
学芸主事　藤澤　昌、利部　修、武藤祐浩、磯村　亨
文化財主査　柴田陽一郎
文化財主任　小林　克
非常勤職員　松尾睦子

５　事業名・調査対象遺跡・調査期間・調査担当者ほか

No.	事　業　名	遺跡名・所在地	調　査　期　間	調査担当者	摘　　要
1	東北横断自動車道遠野秋田線建設事業	戸平川遺跡（秋田市）	平成６年７月27日～８月10日 11月９日～11月25日	高橋　忠彦 藤澤　　昌 伊藤　　攻	
2	森吉山ダム建設事業	桐内Ⅰ遺跡（森吉町） 桐内Ⅱ遺跡（森吉町） 桐内沢遺跡（森吉町）	平成６年８月23日～９月30日	庄内　昭男 利部　　修	
3	一般国道７号琴丘能代道路建設事業	扇田谷地遺跡（八竜町）	平成６年10月17日～11月11日	小林　　克 磯村　　亨	
4	県道木戸石鷹巣線建設事業	伊勢堂岱遺跡（鷹巣町）	平成６年11月７日～11月18日	高橋　忠彦 松尾　睦子	
5	県営ほ場整備事業琴丘地区	泉沢中台遺跡（琴丘町）	平成６年11月７日～12月２日	庄内　昭男 武藤　祐浩 磯村　　亨	
6	開拓地整備事業三ツ森地区	足田遺跡（羽後町）	平成６年４月19日～４月26日	柴田陽一郎 松尾　睦子	調査区内は遺跡と認定できず。



第１図　遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査位置図

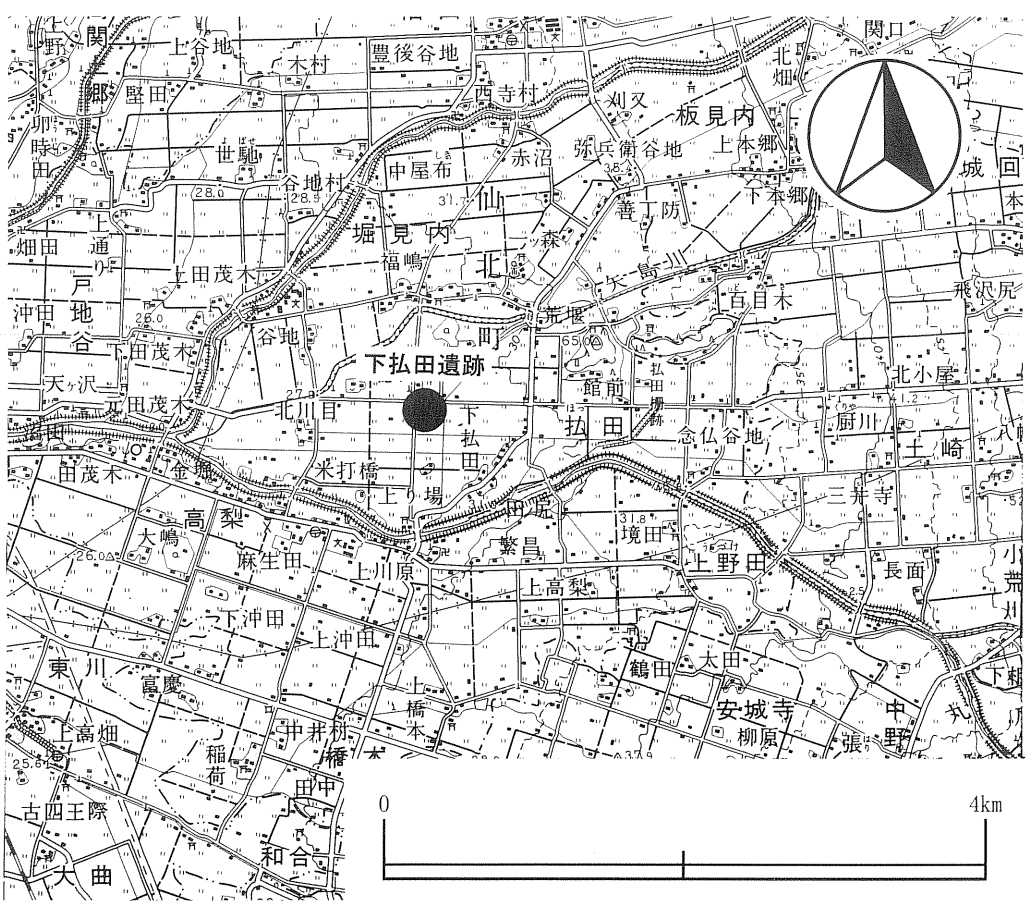
第３章　調査の記録

第１節　遺跡分布調査

１　県営ほ場整備事業北川目地区

仙北郡仙北町払田および高梨地区における事業で、計画面積は121ha。調査は試掘により平成５年度より開始し、本年度が最終年度。調査の結果新発見の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時代等	現況	備　考
1	下払田（しもほった）遺跡	仙北町払田字下払田171外	平安時代	田地	新発見の遺跡

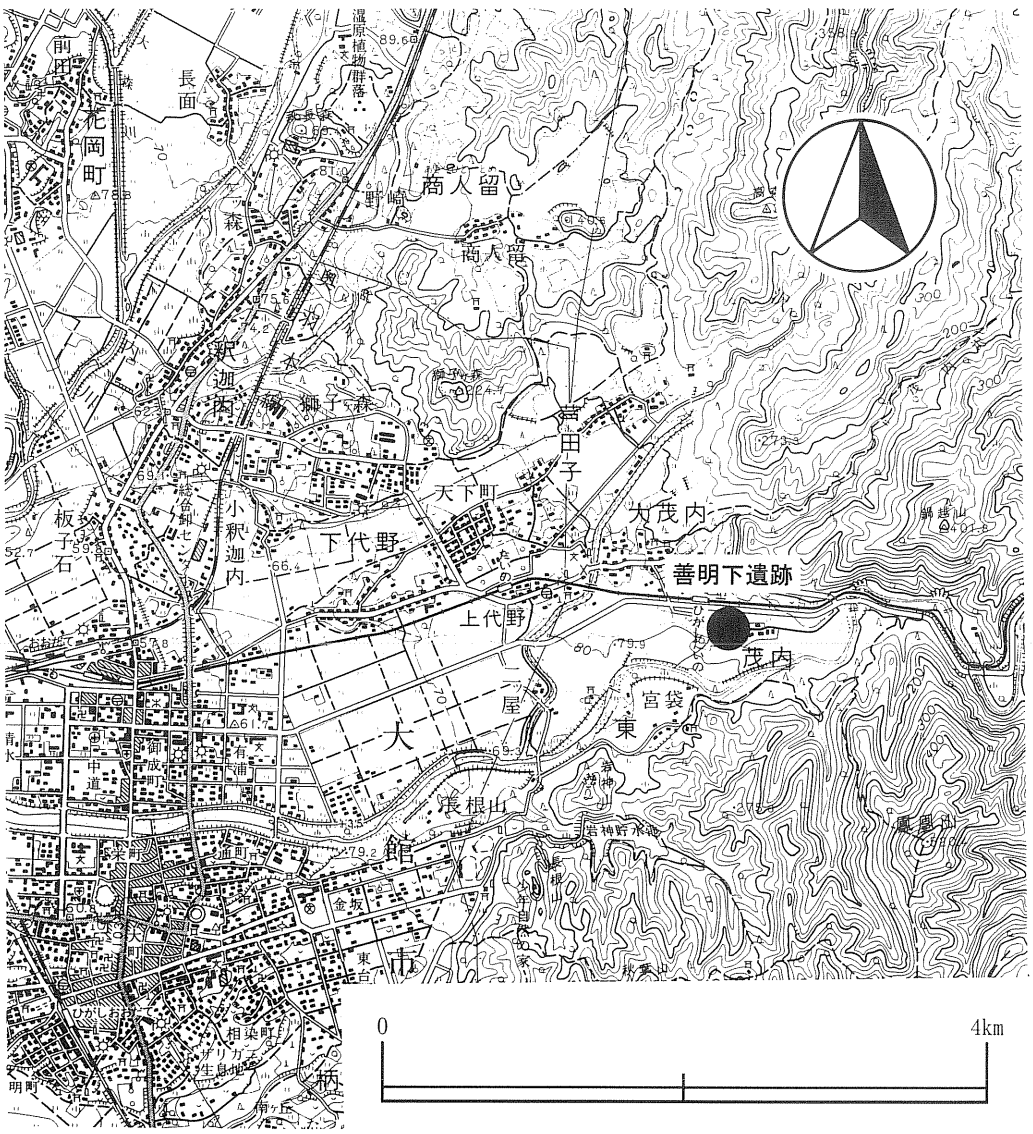


第２図　県営ほ場整備事業北川目地区内遺跡位置図

２　県営ほ場整備事業茂内地区

大館市茂内地区における事業で計画面積は80ha。本年度の調査は当面の事業区域約35haについて試掘を実施。調査の結果新発見の遺跡１箇所が事業に係わることを確認した。

No.	遺　跡　名	所　　在　　地	時 代 等	現況	備　　考
1	善明下（ぜんみょうした）遺跡	大館市茂内字善明下	平安時代	田地	新発見の遺跡



第３図　県営ほ場整備事業茂内地区内遺跡位置図

３　県営ほ場整備事業船戸地区

仙北郡神岡町船戸地区における事業で計画面積は35.7ha。本年度の調査は当面の事業区域について試掘を実施。調査の結果周知の遺跡１箇所*が事業に係わることを確認した。

＊『秋田県遺跡地図』（県南版）には「三本杉経塚」（地図番号45-1）と記載されているが、一般名称として従来から呼ばれている「船戸経塚」を使用した。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時代等	現況	備　考
1	船戸（ふなと）経塚	神岡町北楢岡字船戸290外	中，近世	水田	周知の遺跡

第４図　県営ほ場整備事業船戸地区内遺跡位置図

第２節　遺跡範囲確認調査

１　東北横断自動車道遠野秋田線建設事業

戸平川（とびらかわ）遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県秋田市添川字戸平川142-3外

２　範囲確認調査期間　　平成６年７月27日～８月10日・11月９日～25日

３　範囲確認調査対象面積　　13,700㎡

４　工事区域内遺跡面積　　12,400㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

戸平川遺跡は秋田市のほぼ中央、ＪＲ秋田駅の北北東約４㎞にあり、旭川の左岸に形成された標高20～40ｍの河岸段丘面と沢部に立地している。段丘面には中央部よりやや東寄りに大きな沢が南北方向に入り込んでおり、北向きの台地が沢を挟んで東西に連なる地形となっている。また遺跡南側の後背地は、標高108ｍを頂点とする手形山塊北端であり、その尾根を利用した「天館」と呼ばれる中世城館である。

②現況

台地全面に杉が植林されていたが、未買収の一部を残して、既に伐採・運搬済みである。沢部分は以前は水田であったが、沢上部からの土砂流入により埋まり現在に至っている。

６　範囲確認調査の結果

①層序

西側台地は原地形が大きく改変されており一様ではないが、残存する原地形（11・14・24・28・30トレンチ付近）の層序は、Ⅰ層黒褐色土（厚さ20～30cm）：耕作土、Ⅱ層黒色土（厚さ20～40cm）：炭化物を含む縄文時代晩期中葉（大洞Ｃ1・Ｃ2式）の包含層、Ⅲ層黒褐色土（厚さ10～20cm）、Ⅳ層褐色砂質粘土層：地山である。ほとんどの遺構はⅣ層上面で確認されている。その他の部分は表土から10～20cmで地山に達しており、遺構上面も削平を受けている所が多い。

沢部分はⅠ層の表土が１ｍほど堆積している。Ⅱ層は黒色土で大洞Ｃ1・Ｃ2式中心の良好な包含層であり、その厚さは約１～２ｍ程で、沢の西側台地縁辺部から沢の中央まで堆積している。３トレンチ付近では、ボーリング調査の結果さらにその下に暗褐色の泥炭層が存在しているようである。

東側台地はⅠ層暗褐色土（厚さ10cm）：表土、Ⅱ層黒褐色土（厚さ10～15cm）、Ⅲ層暗褐色

土(厚さ10cm)：地山漸移層、Ⅳ層明褐色土：風化した小石混じりの土砂主体の地山である。

②検出遺構と遺物

遺構は縄文時代晩期中葉の土壙墓と土坑、焼土遺構のほか、上面径５ｍ、深さ1.8m、底径2.5ｍの井戸様の掘り込みを検出した。また古代～中世と考えられる一辺が12ｍの方形の溝で囲まれた建物跡や石垣状の遺構も検出された。

遺物は沢部分や西側台地の原地形が残存している黒色土の包含層から縄文時代晩期中葉の遺物が多量に出土した。このうち土器には鉢形土器・深鉢形土器・皿形土器・注口土器などのほか、赤色彩色の土器もある。また小型の土偶、縄文時代前期の土器、平安時代の土師器杯、中世と思われる陶器なども少量ではあるが出土し、須恵器も表採されている。石器には石鏃・石匙・石錐などのほか石剣・石棒・丸玉などの石製品も出土している。

7　所見

①遺跡の種類

遺跡は縄文時代晩期の墓域と捨て場を中心として、縄文時代前期、古代の集落及び中世城館の施設が存在する複合遺跡と考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域

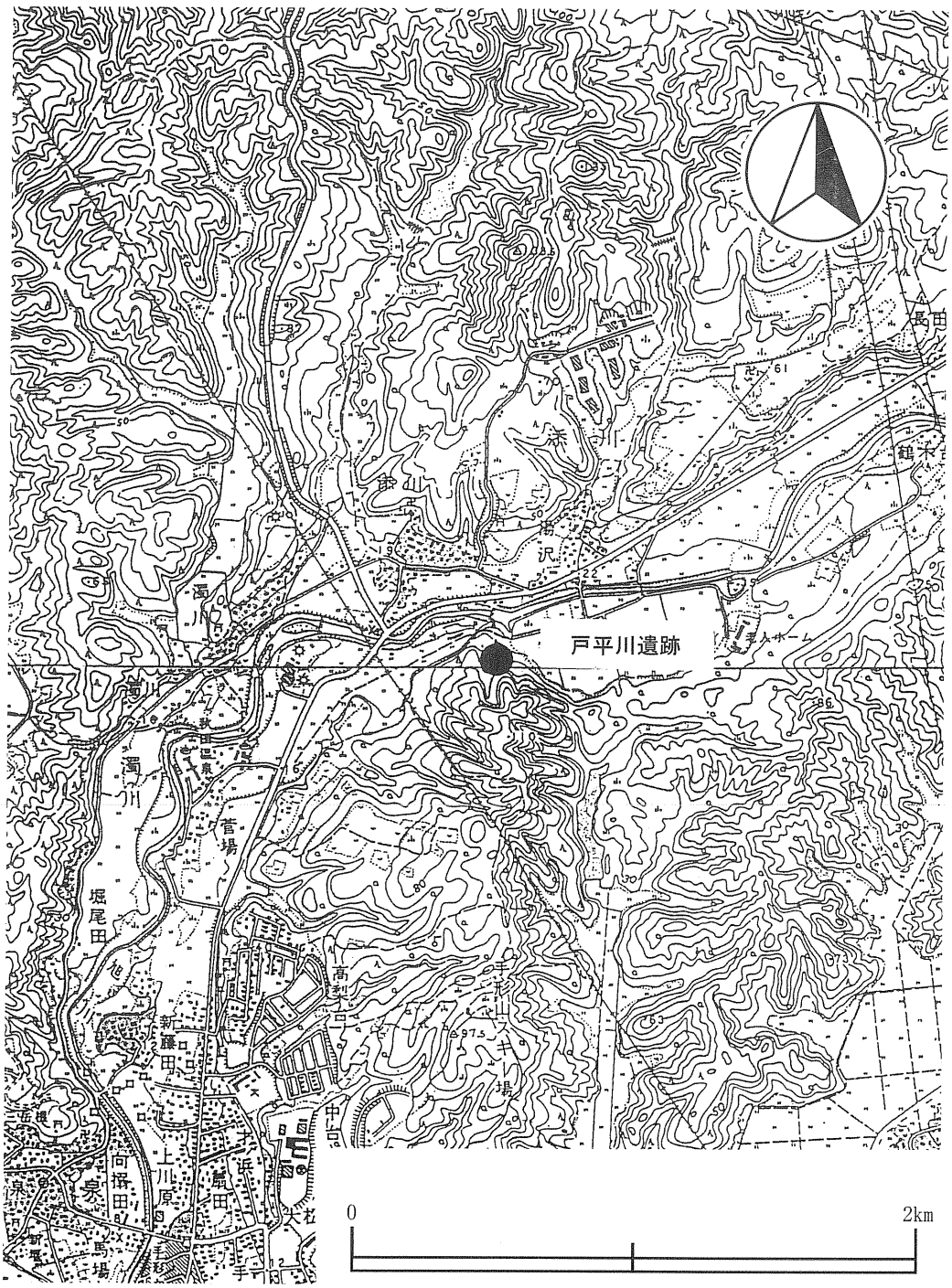
遺跡の範囲は標高20ｍ～35ｍの台地全体とその斜面、さらにその台地に挟まれた捨て場と考えられる沢全体である。特に沢部分は縄文時代晩期中葉の厚い遺物包含層が堆積しており、西側台地の土壙墓等と密接に関連していると考えられる。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

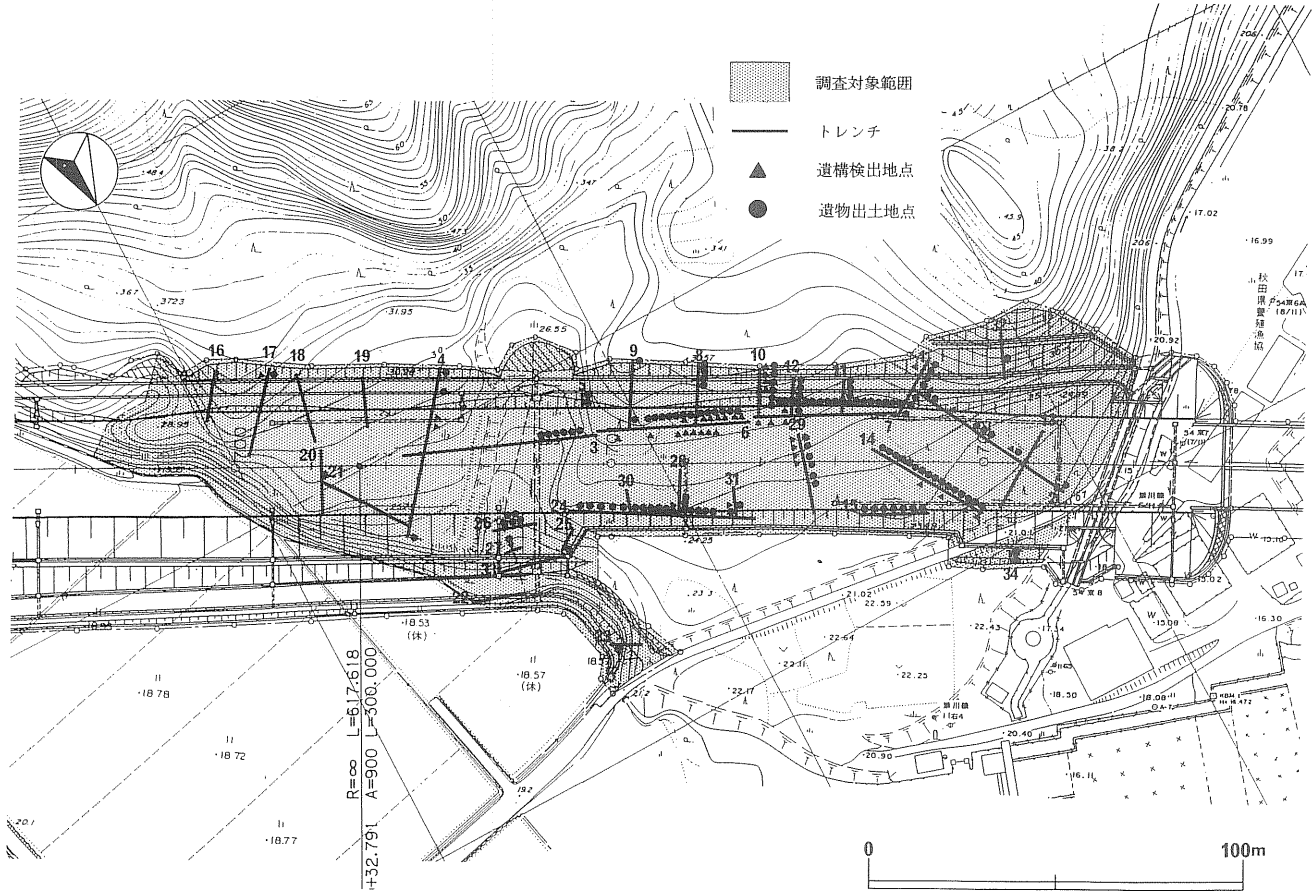
西側台地では縄文時代晩期中葉の土壙墓、古代～中世の建物跡や石垣状の遺構などが検出されるものと考えられる。

沢部分の厚い良好な包含層からは縄文時代晩期中葉の遺物が多量に出土するものと考えられ、特に泥炭層からは木製品などの有機質の遺物の出土も予想される。

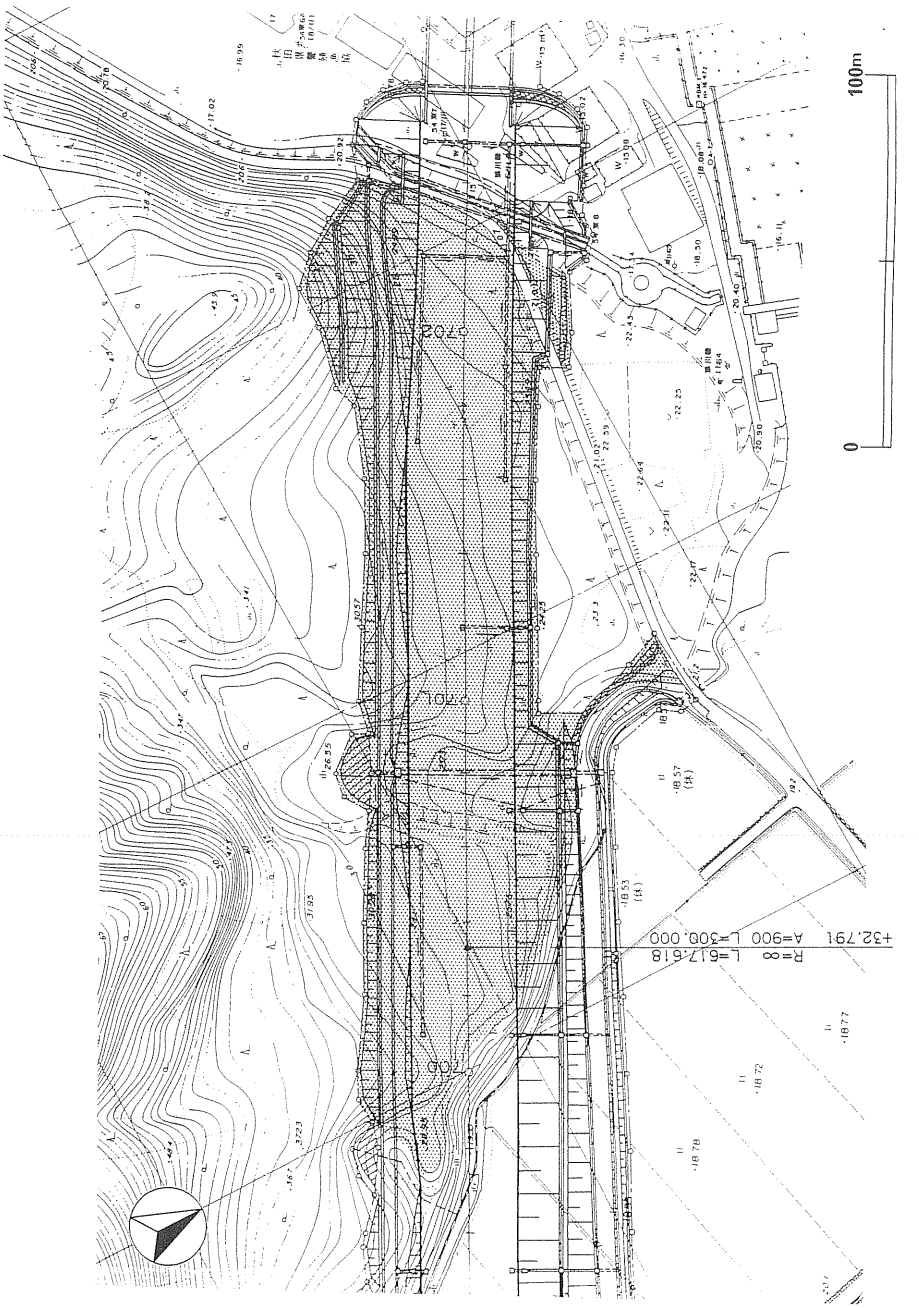
東側台地は遺構・遺物が希薄であるが、台地の背後が大規模な中世城館であり、城館址関連の遺構の存在も推定される。



第５図　戸平川遺跡位置図



第６図　戸平川遺跡　範囲確認調査結果図



第７図　戸平川遺跡　工事区域内遺跡範囲図

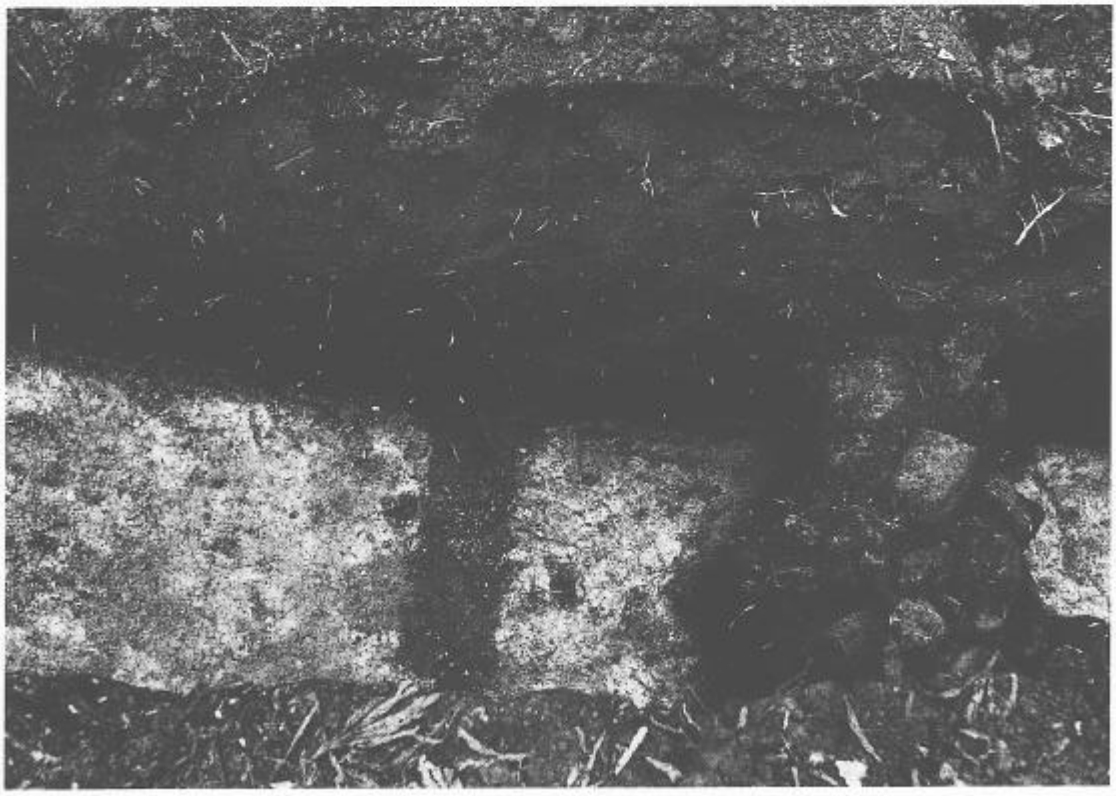
戸平川遺跡　近景　（北から）

戸平川遺跡　３トレンチ　捨て場検出状況　（東から）

戸平川遺跡　7トレンチ　土坑検出状況　（北から）

戸平川遺跡　24トレンチ　西側台地Ⅱ層残存状況　（東から）

戸平川遺跡　26トレンチ　調査風景　（東から）



戸平川遺跡　31トレンチ　溝・石垣状遺構検出状況　（東から）

２　森吉山ダム建設事業

(1) 桐内（きりない）Ⅰ遺跡、桐内Ⅱ遺跡

１　遺跡所在地

桐内Ⅰ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字桐内家ノ上ミ岱11外
桐内Ⅱ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字桐内家ノ上川反19外
２　範囲確認調査期間	平成６年８月23日～９月30日
３　範囲確認調査対象面積	51,000㎡
４　工事区域内遺跡面積	桐内Ⅰ遺跡 14,000㎡、桐内Ⅱ遺跡 11,000㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

桐内Ⅰ・Ⅱ遺跡は東西に長い森吉町のほぼ中央にあたり、秋田内陸線鉄道阿仁前田駅から南東方向約５㎞の位置にある。西流する小又川沿いに県道小滝・阿仁前田停車場線を東上すると、小又川と桐内沢川の合流点にかかる桐内橋にいたる。その桐内橋より手前の段丘面に遺跡が立地している。

桐内Ⅰ・Ⅱ遺跡は大久保山山地が北西方向に張り出た山裾につながる段丘面にあり、段丘面は東西に広く、標高が最も高いところで129ｍある。

県道を境として南側を桐内Ⅰ遺跡、北側を桐内Ⅱ遺跡とする。桐内Ⅰ遺跡のある段丘面は標高125ｍ前後であり、東北方向が張り出し、東側を桐内沢で画されている。桐内Ⅱ遺跡は小又川に面した段丘面にあり、桐内Ⅰ遺跡より低位に立地している。東側で標高118ｍ、西側で標高116ｍ前後を測り、東西で段差がみられる。

②現況

ダム建設事業のためすでに桐内部落の移転は終了しており、桐内Ⅰ遺跡ではかつての水田・畑地および宅地を対象として調査を行い、桐内Ⅱ遺跡では水田を対象として調査を行った。水田については、昭和48年以前においては小区画で段差のきついものであったといわれ、昭和48年以降の耕地整理によって現状でみられる５反歩から１町歩の水田区画に改変されたものである。

６　範囲確認調査の方法

水田区画の中で４ｍの坪掘り箇所を設定し、粗掘りによって遺物と遺構の有無・層位・深さを確認したのち坪掘り箇所を南北方向にむすぶトレンチを設定した。トレンチ調査においても遺物の有無、地山面における遺構の存在を確認していった。遺物の出土しなかった標高126ｍ

以上の地域については、地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去したのち地山面を精査して遺構の有無を確認していった。

7　範囲確認調査の結果

A：桐内Ⅰ遺跡

①層位

段丘面では南北に設定したトレンチ調査によって耕地整理による地形の改変が認められた。高位から低位へ土が移動されたものであり、とくに段丘面上位の標高129mから126mの部分では削平が１m前後におよぶとみられた。低い部分での地山は灰褐色の粘土層であり、とくに段差部分には径50cmの大きな石が詰め込まれ、上に粘土混じりの黒色土を１m前後盛った状態であった。遺跡の所在する標高125m以下の段丘面においては、表土耕作土とその下に遺物包含層とみられる黒褐色土が認められた。第９図に示した６地点における層位と深さを下に記した。

Ｄ３－表土耕作土20cm・明黄褐色土（遺構確認面）

Ｄ４－表土耕作土20cm・黒褐色土40cm・明黄褐色土（遺構確認面）

Ｇ３－表土耕作土30cm・黒褐色土45cmの堆積土に径50cmの大石包含・明黄褐色土（遺構確認面）

Ｇ４－表土耕作土30cm・黒褐色土25cmの堆積土に径50cmの大石包含・明黄褐色土（遺構確認面）

Ｋ３－表土耕作土20cm・明黄褐色土（遺構確認面）

Ｋ４－表土耕作土25cm・明黄褐色土（遺構確認面）

遺構確認面を明黄褐色土としたが、大石との関係については掘削されたボーリング試掘坑の観察から、厚さ50cm前後の明黄褐色土の下に大石の包含層があることがわかった。ただし表土の下に大石がすぐ出てくる場所もあったことから、大石を覆う明褐色土層の厚さが一様でないとみられる。

②遺構と遺物

桐内Ⅰ遺跡ではトレンチ調査で遺構は確認されなかったが、東南に掘られていたボーリング試掘坑の断面に住居跡らしき落ち込みを確認した。遺物は調査区の広い範囲で出土しており、縄文時代前期から後期の土器・石器・石器素材である。とくに西南部にまとまる傾向が見られた（第９図参照、Ａブロックとした）。なお範囲確認調査は遺跡全体の５％をおこない、コンテナ1.5箱程度の出土量である。

B：桐内Ⅱ遺跡

①層位

南北に設定したトレンチ調査によって耕地整理による地形の改変が認められたが、桐内Ⅰ遺

跡ほど大きく削平されたようすはみられなかった。ただし段差部分に黄褐色土ブロックが混在した黒色土が高く積み上げられており、地山まで深さが１ｍ前後ある。第９図に示した４地点における層位と深さを下に記した。

Ｌ１－表土耕作土20cm・黄褐色土（遺構確認面）

Ｌ２－表土耕作土20cm・黒褐色土30cm・黄褐色土（遺構確認面）

Ｌ３－表土耕作土30cm・黒褐色土40cm・黄褐色土（遺構確認面）

Ｌ４－表土耕作土30cm・黒褐色土40cmに径40cmの大石包含・黄褐色土（遺構確認面）

②遺構と遺物

段丘上位面の東側で土坑群を検出した。下位面の東側でも土坑と思われる落ち込みを確認している。遺物は段丘上位面と下位面の広い範囲で縄文時代前期・中期・後期の土器・石器・石器素材が出土している。後期の土器は上位面中央で比較的まとまってみつかった（第９図参照、Ｂブロックとした）。なお範囲確認調査は遺跡全体の５％をおこない、コンテナ0.5箱程度の出土量である。

８　所見

Ａ：桐内Ｉ遺跡

①遺跡の種類

桐内Ｉ遺跡は縄文時代後期を中心とする集落遺跡であり、一部で縄文時代前期・中期の遺構と重複していると考えられる。

②遺跡の範囲

山裾部にあたる東側はかつての部落の中心部で民家がまとまっていたところであって、遺構および遺物が検出されなかった。また東側山裾部の標高130ｍ前後の宅地および水田部分については、山裾部を大きく削平しているものとみられた。したがって遺物の検出状況から標高125ｍ前後の段丘平坦部が遺跡の範囲であると判断した。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

段丘面縁辺に縄文時代の住居跡および土坑群がまとまって検出されると予想される。東南の一角に大きな石のまとまりがあり、後期の土器が伴出していることから配石遺構の存在も考慮する必要がある。

遺物については縄文時代前期・中期・後期の土器と石器が出土しており、とくに石器と石器素材の出土が多いと予想される。

Ｂ：桐内Ⅱ遺跡

①遺跡の種類

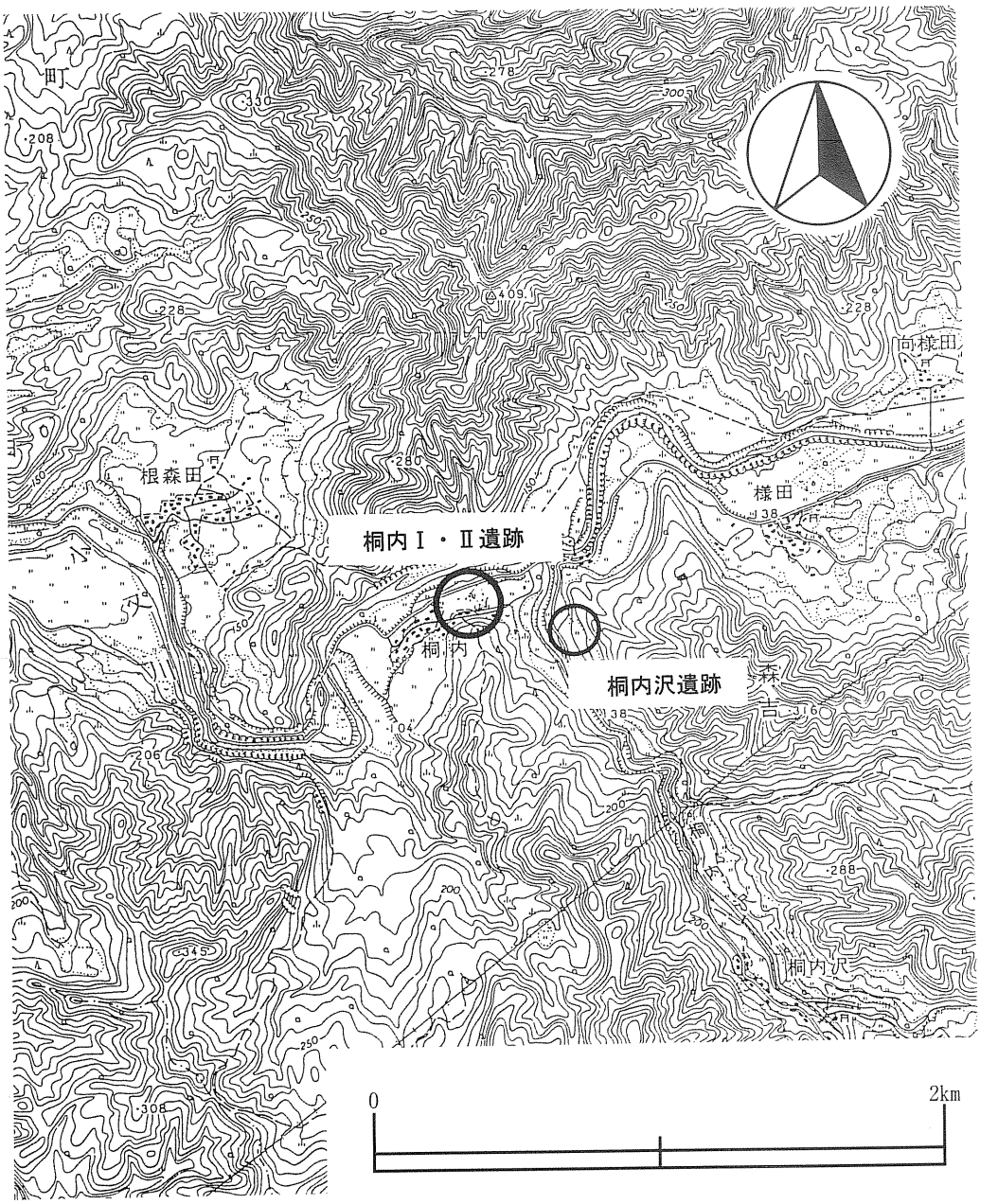
桐内Ⅱ遺跡は縄文時代後期の集落遺跡である。

②遺跡の範囲

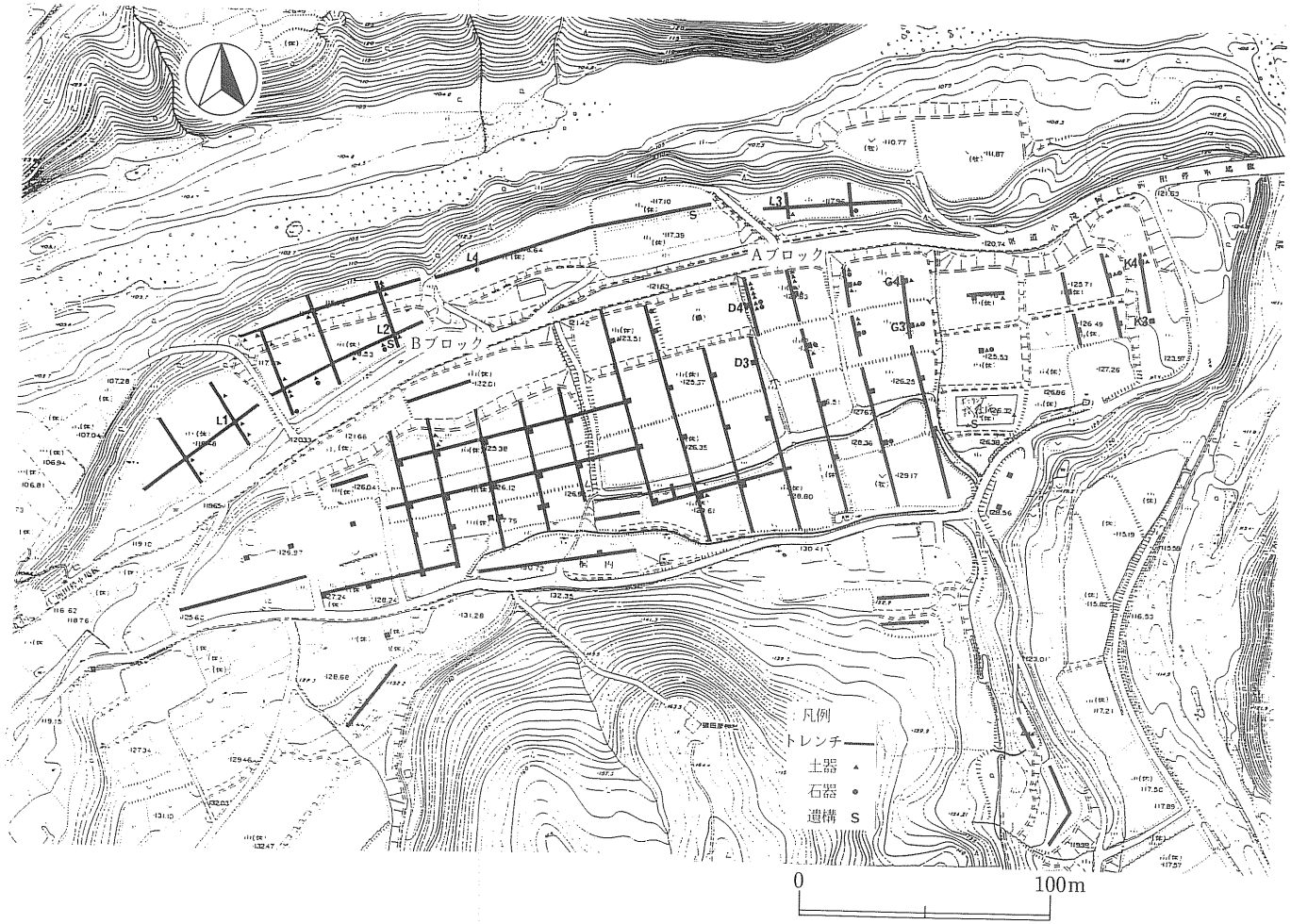
遺構・遺物の検出状況から上位と下位の段丘面全域が遺跡の範囲と考えられる。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

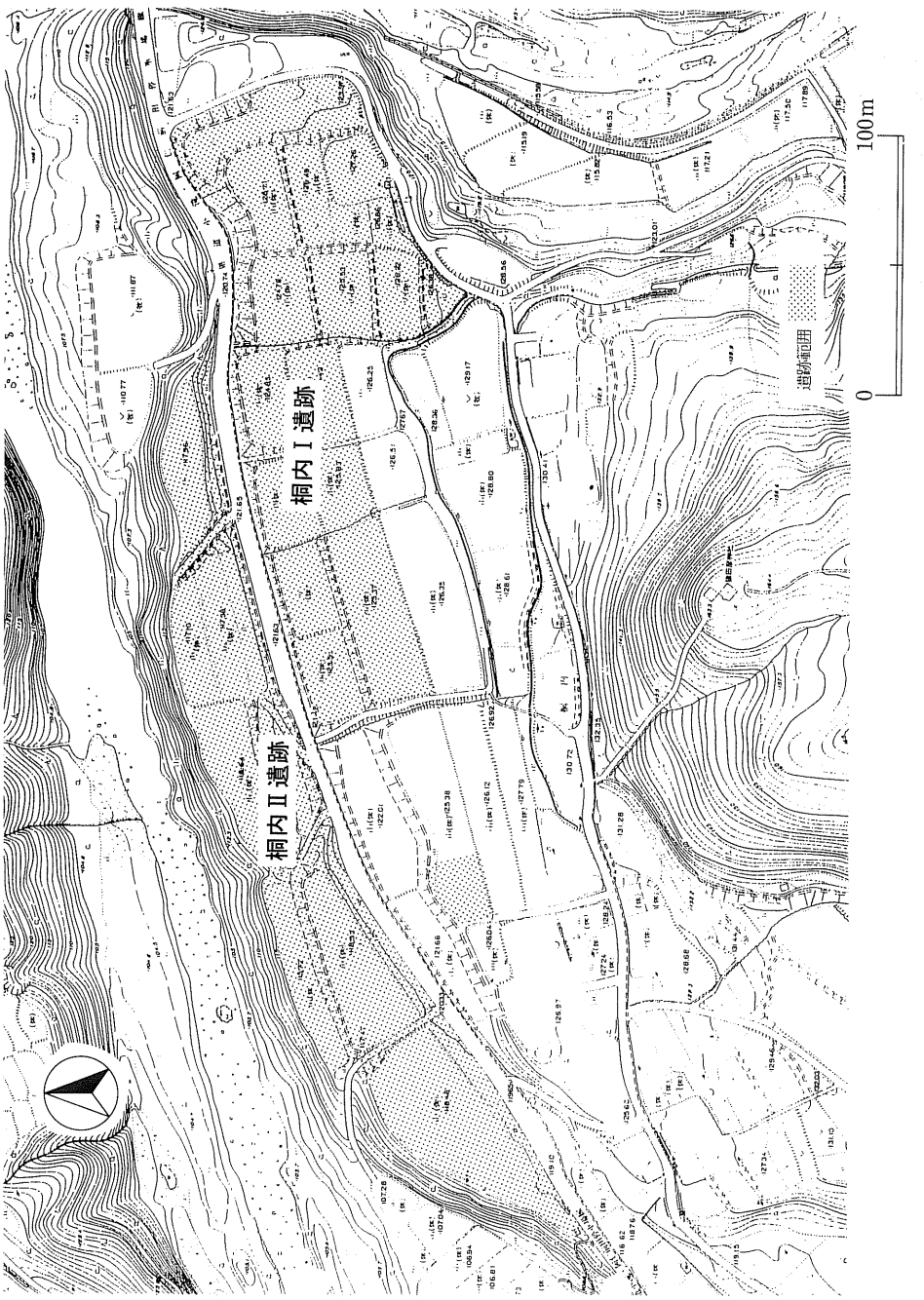
段丘面縁辺に縄文時代後期の土坑群が検出されるものと予想され、とくに段丘上位面の東側と下位面の東側にまとまりがあると思われる。



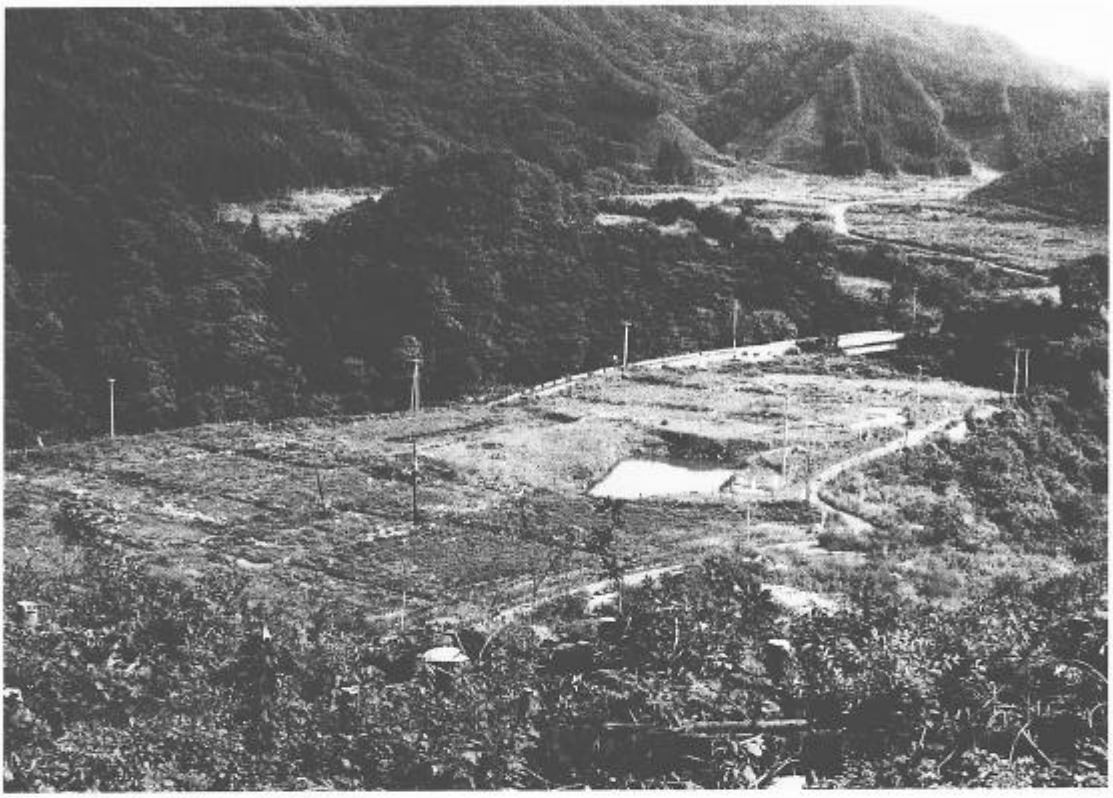
第８図　桐内Ⅰ・Ⅱ遺跡　桐内沢遺跡位置図



第９図　桐内Ⅰ・Ⅱ遺跡　範囲確認調査結果図



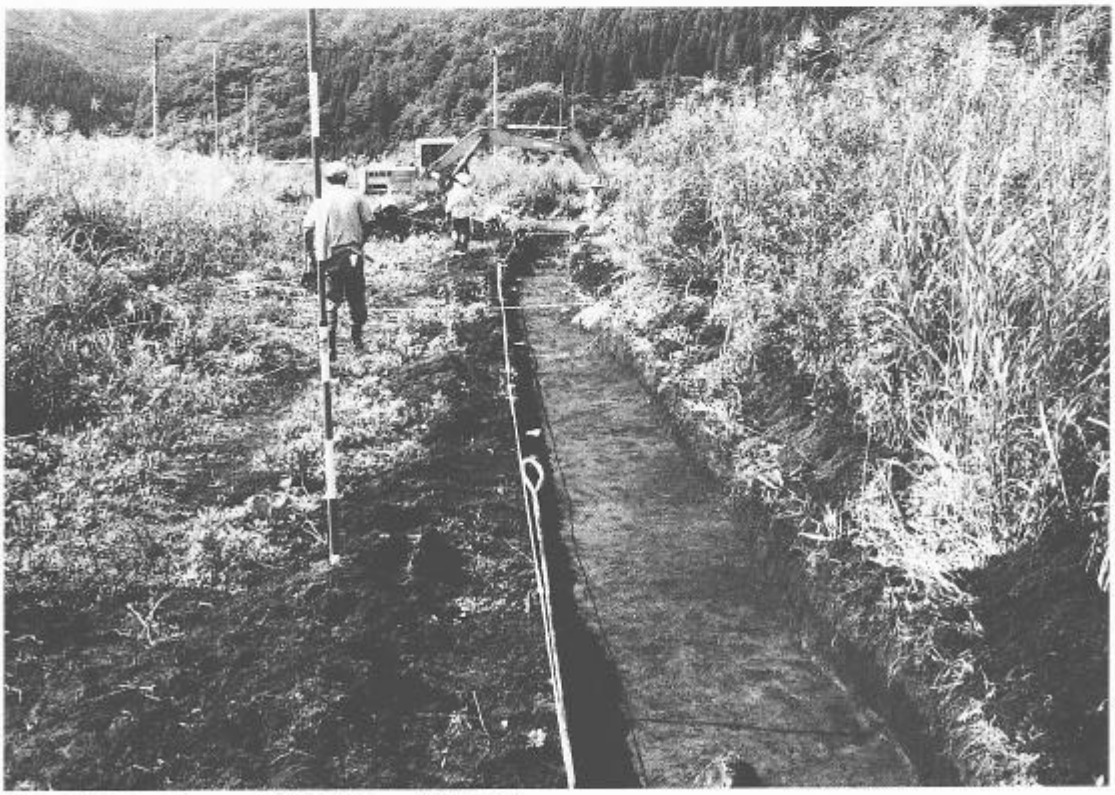
第10図　桐内Ⅰ・Ⅱ遺跡　工事区域内遺跡範囲図



桐内Ⅰ遺跡　遠景　（南から）

桐内Ⅰ遺跡　トレンチ調査状況　（南から）

桐内Ⅱ遺跡　トレンチ調査状況　（東から）



桐内Ⅱ遺跡　トレンチ調査状況　（東から）

(2) 桐内沢遺跡（きりないざわ）

1　遺跡所在地　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字桐内沢関下タ103

2　範囲確認調査期間　　平成６年８月23日～９月30日

3　範囲確認調査対象面積　　28,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　11,000㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

桐内沢遺跡は東西に長い森吉町のほぼ中央にあたり、秋田内陸線鉄道阿仁前田駅から南東に約５kmの位置にある。西流する小又川に沿って県道小滝・阿仁前田停車場線を東上すると、小又川と桐内沢川の合流点にかかる桐内橋にいたる。その桐内橋より南に入る町道桐内沢線に沿って遺跡が所在している。

桐内沢遺跡は北西方向に張り出す高畑山地の裾部につながる段丘面にある。すぐ西側が深い谷であり、はるか下に桐内沢川が流れている。段丘面は南北に細長く、北側が高く標高130m前後、南側が低く標高123mであり、北から南へ緩やかな傾斜地となっている。

②現況

町道東側は傾斜面を利用した水田であり、町道西側は畑地および山林であったとみられるが現在は荒廃している。水田部分は昭和48年以降の耕地整理によって山地中腹まで拡張され、さらに現状でみられる５反歩前後の水田区画に改変されたものとなっている。

6　範囲確認調査の方法

水田および畑地の区画の中に４mの坪掘り箇所を任意に設定し、粗掘りによって遺物と遺構の有無・層位・深さを確認した。低位の水田面は表土がかなり深いことが予想され、地形を考慮して任意にトレンチを設定し重機で表土を除去した後、地山面を精査して遺構の有無を確認していった。

7　範囲確認調査の結果

①層序

山地中腹と裾部では耕作土が砂利混じりの黄褐色土であり、大きく２段に削平されているものとみられる。プライマリーな状況での堆積土は標高135m以下の緩斜面にあり、表土耕作土とその下に遺物包含層とみられる黒褐色土が認められた。第11図に示した６地点における層位と深さを下に記した。

Ａ３－表土耕作土20cm・黒褐色土30cm・黄褐色土（遺構確認面）

Ａ12－表土耕作土50cm・黄褐色土（遺構確認面）

A13－表土耕作土20cm・径20cmの大石包含する黄褐色土（遺構確認面）

B１－表土耕作土30cm・黒褐色土20cm・黄褐色土（遺構確認面）

B６－表土耕作土30cm・径20cmの大石包含する黄褐色土（遺構確認面）

遺構確認面を黄褐色土としたが、低位では黄褐色土中に石が包含されている。また低位で自然の沢が入り込み表土の黒色土が１m以上堆積する部分が500㎡前後あるので注意を要する。

②検出遺構と出土遺物

段丘中位で住居跡と思われる落ち込みを段丘低位北側で小規模の土坑を確認した。段丘中位の落ち込み近くから縄文時代中期の深鉢形土器と石匙などの石器類が出土している。広い範囲で縄文時代前期・中期・後期の土器、石器と石器素材が出土しており、南側では中期・後期、北側では前期・後期の遺物が多く分布している。耕地整理で削平が行われたとみられる南側で縄文中期の石冠を採集した（第11図参照、C地点とした）。なお範囲確認調査は遺跡全体の５%をおこない、コンテナ１箱程度の出土量である。

８　所見

①遺跡の種類

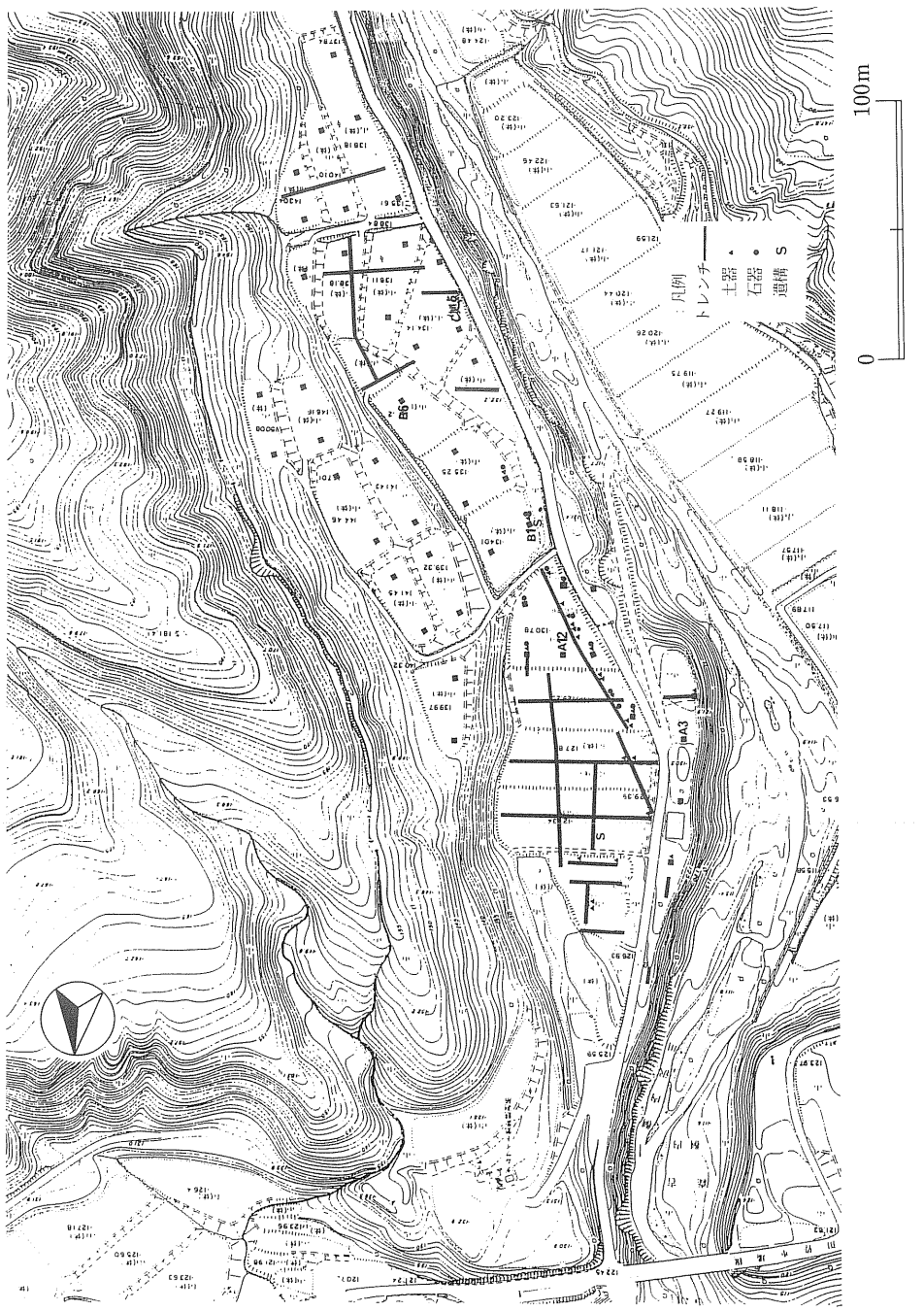
縄文時代前期から後期にかけての集落遺跡である。

②遺跡の範囲

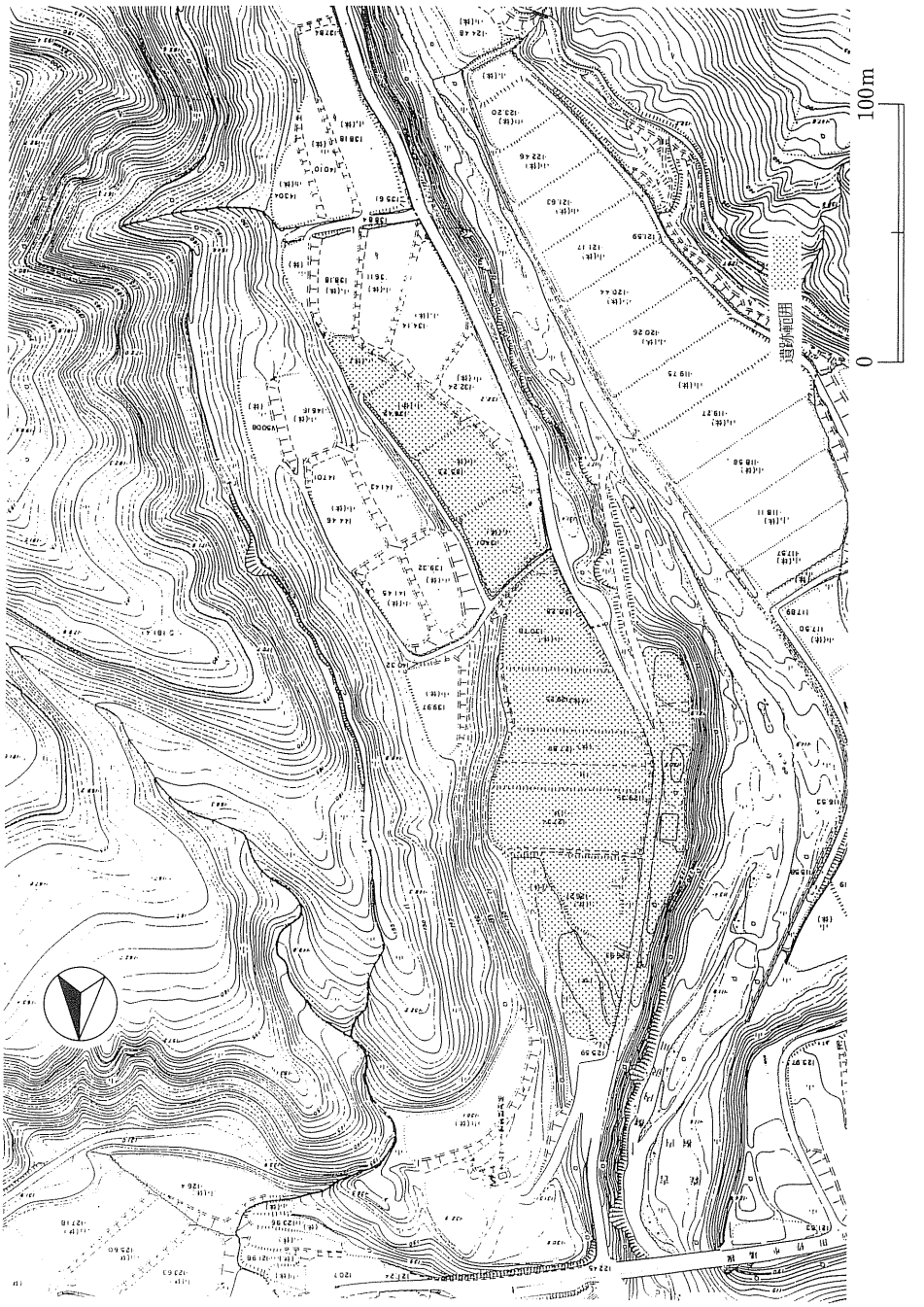
山地裾部から西側の段丘面が遺跡の範囲で南側はV字状に入る沢によって画されていると考えられる。

③発掘時に予想される遺構・遺物

段丘中位では縁辺に縄文時代中期の住居跡と土坑群がまとまって検出される可能性が高い。低位でも前期・後期の住居跡と土坑が検出されると予想される。遺物は段丘中央にまとまって見つかっており、縁辺部ではプライマリーな堆積層が厚いことから出土量も多いことが予想される。



第11図　桐内沢遺跡　範囲確認調査結果図

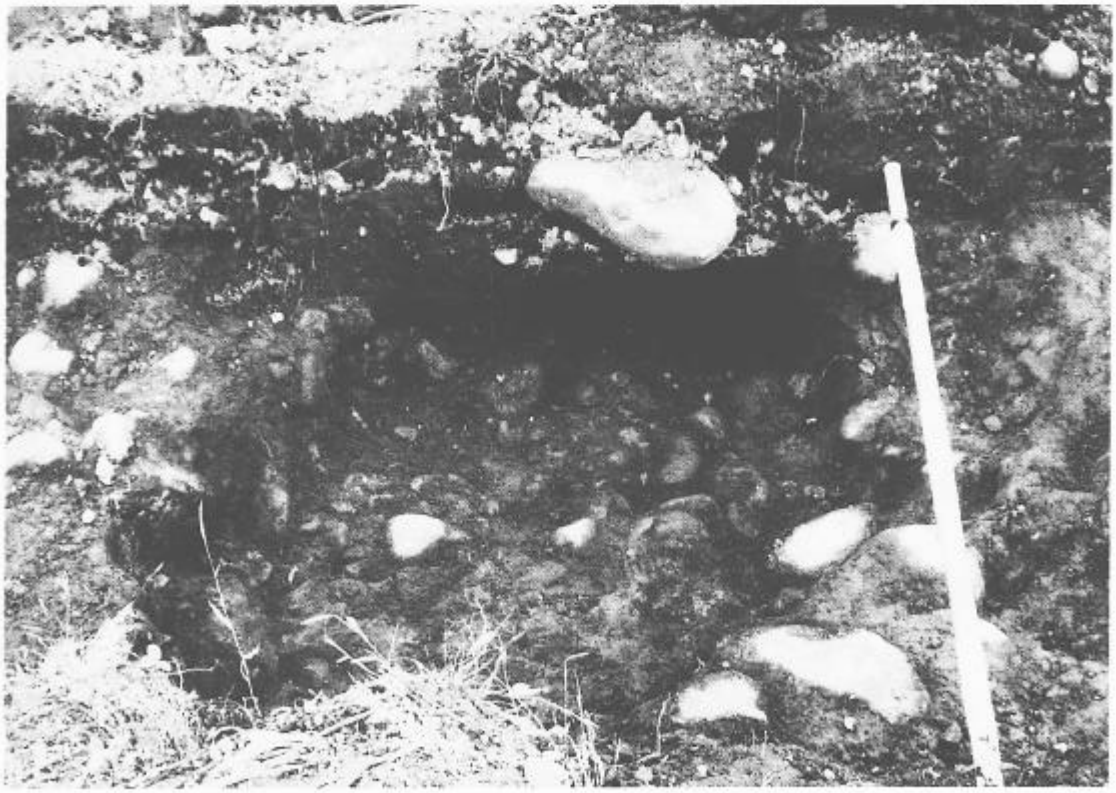


第12図　桐内沢遺跡　工事区域内遺跡範囲図

桐内沢遺跡　遠景　（西から）

桐内沢遺跡　トレンチ調査状況　（西から）

桐内沢遺跡　土器出土状況　（上から）



桐内沢遺跡　検出土坑　（南から）

３　一般国道７号琴丘能代道路建設事業

扇田谷地遺跡（おうぎだやち）

１　遺跡所在地　　秋田県山本郡八竜町鵜川字扇田谷地

２　範囲確認調査期間　　平成６年10月17日～11月11日

３　範囲確認調査対象面積　　17,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　12,000㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

扇田谷地遺跡は八竜町鵜川集落の中心から北東約0.6kmの地点にある。鵜川集落のある八郎潟北岸には、能代市と山本町の境界付近から南に流れ下る鵜川川と、琴丘町と上小阿仁村の境界、房住山から西流する三種川とが作る沖積地が標高20～30mの台地群の間に開けている。扇田谷地遺跡はこの鵜川川と三種川に挟まれた台地群のひとつ、金光寺野台地の南西側先端部にあたる。金光寺野台地周縁は細かな沢によって開析されて鋸歯状を呈し小規模な沼沢地が点在するが、台地南西端にある本遺跡周辺もまた、おもに北西側と南東側から入り込んだいくつかの沢が沼地を作っている。遺跡自体は標高20m前後の台地上面であるが、その上面もこれらの沼地に向う沢頭が入り込んで起伏の大きな地形を呈している。

②現況

一般国道７号琴丘能代道路にかかる部分は大半が松と杉の植林地であるが、工事計画に先だって伐採は完了している。ただし伐採後ある程度の時間を経ているため、アカシアなどの灌木および笹などの繁茂が相当に進んでいる。また今回範囲確認調査の対象とした台地の東西両側は水田となっているが、工事買収が完了しているため耕作はおこなわれていない。

なお、台地上面には路線予定地を南北に横断して幅４ｍの道路が通っている。

６　範囲確認調査の方法

調査は路線延長に平行する方向と、20m間隔でそれに直交する方向の幅１ｍのトレンチを設定しておこなった。前者にはＡ～Ｇまで、後者には№１～№23までのトレンチ名を付している。トレンチの総延長は1,890ｍで、対象面積の約11％を調査したことになる。トレンチを掘削し遺構と判断される土層の変化が認められた部分は一辺４～６ｍの方形に拡張し、その種別を確認するように努め、清掃後写真撮影によって記録した。また出土した遺物にはトレンチ名と遺物番号を付し、路線中心杭からの距離を計測して位置を記録した。

7　範囲確認調査の結果

①層序

Ⅰ層：表土層、層厚５～15cm、Ⅱ層：黒褐色～暗褐色土、層厚０～70cm、Ⅲ層：暗褐色土、層厚20～40cm、Ⅳ層：黄褐色～黄灰色粘土層（基盤層）である。調査区内の起伏の多さに対応して表土以下基盤層までの厚さも多様である。緩斜面および台地の高い部分では表土以下基盤層までの土の堆積は薄く、Ⅰ層の直下がⅣ層となる削平箇所もある。対して路線内に北側から入る数条の沢に面した部分は１m以上の厚さとなって堆積しており、最下部では湧水も認められる。なお遺跡の主たる時期である平安時代の遺物はⅡ層、Ⅲ層から出土しており、当該時期の遺構はⅢ層上面、あるいはⅣ層上面で確認している。

②検出遺構と遺物

平安時代の竪穴住居跡は№.２と№.３の間、および№.６と№.７の間のＡトレンチ内、№.２とＢトレンチが交わる地点の３箇所で確認している。また、№.10とＣトレンチが交わる地点では２×２m程の方形に掘り込まれた遺構内で鉄滓、炉壁を出土し、製鉄関連（鍛冶）遺構の存在が推定された。そのほか径１m前後の円形土坑は、路線予定地内を横断する道路西側の広い範囲にわたって検出している。

遺物の中心は平安時代の坏、甕、鍋などの土師器および須恵器である。土師器甕では底部に砂粒の附着したいわゆる「砂底」のものも含まれる。これらの土器に混じって鉄滓および炉壁も出土している。鉄滓はチタン分の多い流出滓ではなく、磁着力の強い鉄塊系鉄滓である。また縄文時代の遺物として少量の土器と石器が出土している。土器には有文のものはない。胎土に繊維を含んだ縄文施文の細片である。石器には２点の石鏃、１点の石篦が含まれ、ほかに周縁に調整を加えた剥片、石篦加工時にできる背面構成が複雑な薄手の剥片などもある。また、これら縄文時代、平安時代の遺物の他に、表面に櫛歯状工具による波状紋を２段にわたって施文した珠洲系と思われる壺の体部破片１点も出土している。

8　所見

①遺跡の種類

時期を明らかに特定できるのは、上記に示した遺物から、縄文時代前期、平安時代、中世の３つの時期であるが、このうち遺構も含めて確認できたのは平安時代のみである。平安時代の遺構は住居跡、製鉄遺構、土坑からなるが、遺跡の立地条件からみて、規模の大きな居住域が存在する可能性は低く、むしろ製鉄遺構に示されるような生産関係の遺構が遺跡内に入り込んだ沢頭部分を選んで位置する可能性を指摘できる。土坑もまたこうした生産遺構に関係したものではないかと推定される。

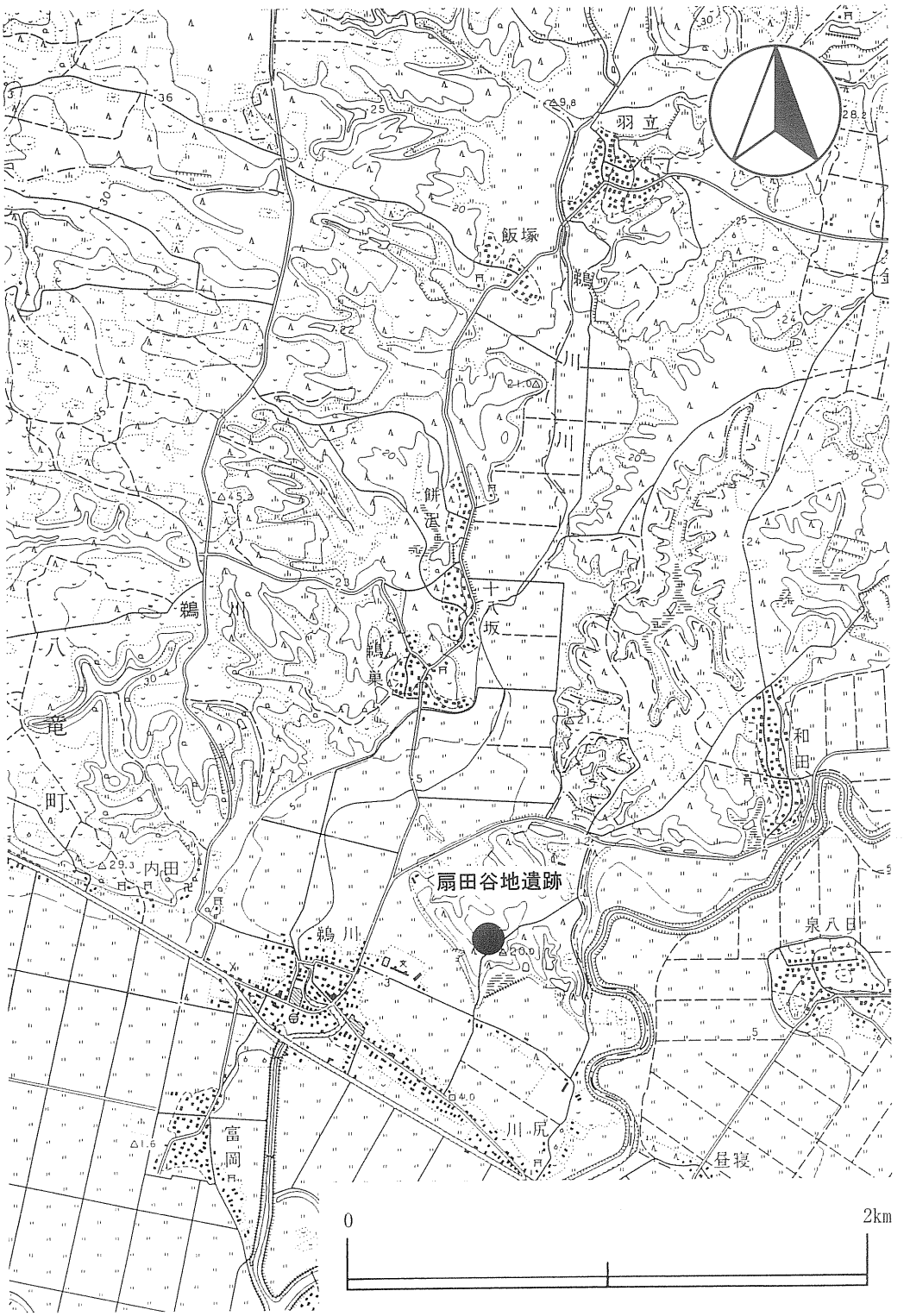
また今回の調査では確認できなかった縄文時代前期の遺構も、調査区を広げた上で精査をお

こなえば検出される可能性が大きい。今回の調査でも剥片が集中して出土する地点があり、そのような地点の周囲では注意を要する。

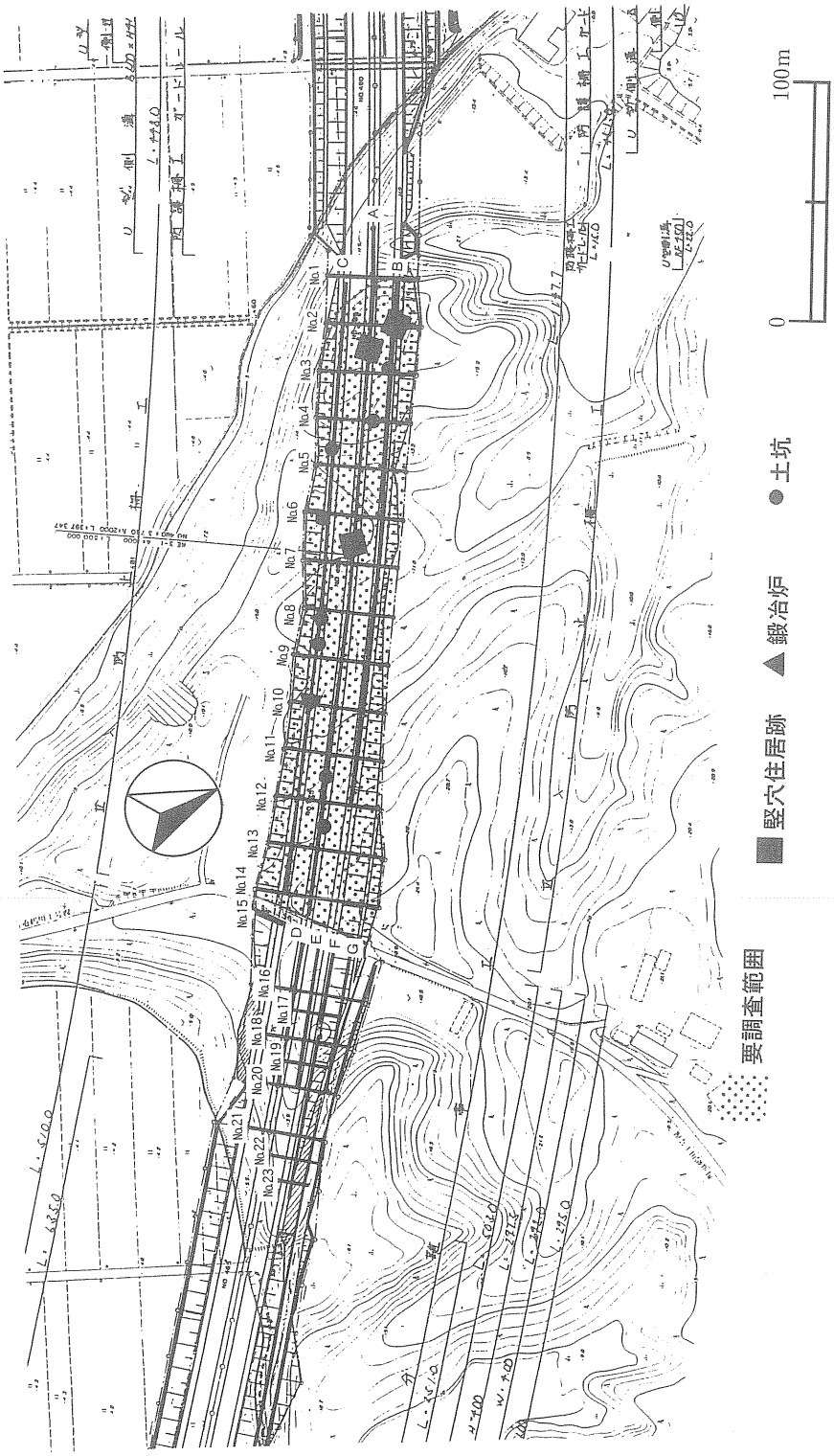
少なくとも路線予定域内に限っては中世城館の存在を予想させるような地形的兆候は認められない。しかし遺跡の立地する台地全体をみれば周囲の沖積地に向かって開く沢が複雑に入り込んでおり、台地自体も独立丘に近い。遺跡の西側に鵜川川を挟んで位置する「館の上館」は中世湊安東氏と檜山安東氏の合戦場とも擬定され、本遺跡のある台地の位置やその特徴からも、中世において何らかの利用がなされた可能性を全く否定することはできないであろう。恐らくは路線予定域外に城館址関連の遺構が存在するものと推定される。

②遺跡の範囲と工事区域

台地西縁から台地を横断する道路までが調査を要すると判断される範囲である。道路の東側は現状では要調査区域とほぼ同じ高さで続く一連の地形面となっているが、本来は要調査範囲よりも１～２ｍ程高いことが路線予定域北側の地形から判断される。トレンチを入れた結果でもこの部分での削平の度合いは大きく、遺構、遺物とも検出されていない。したがって、この道路東側の範囲は調査の対象から除外してよいものと判断した。



第13図　扇田谷地遺跡位置図

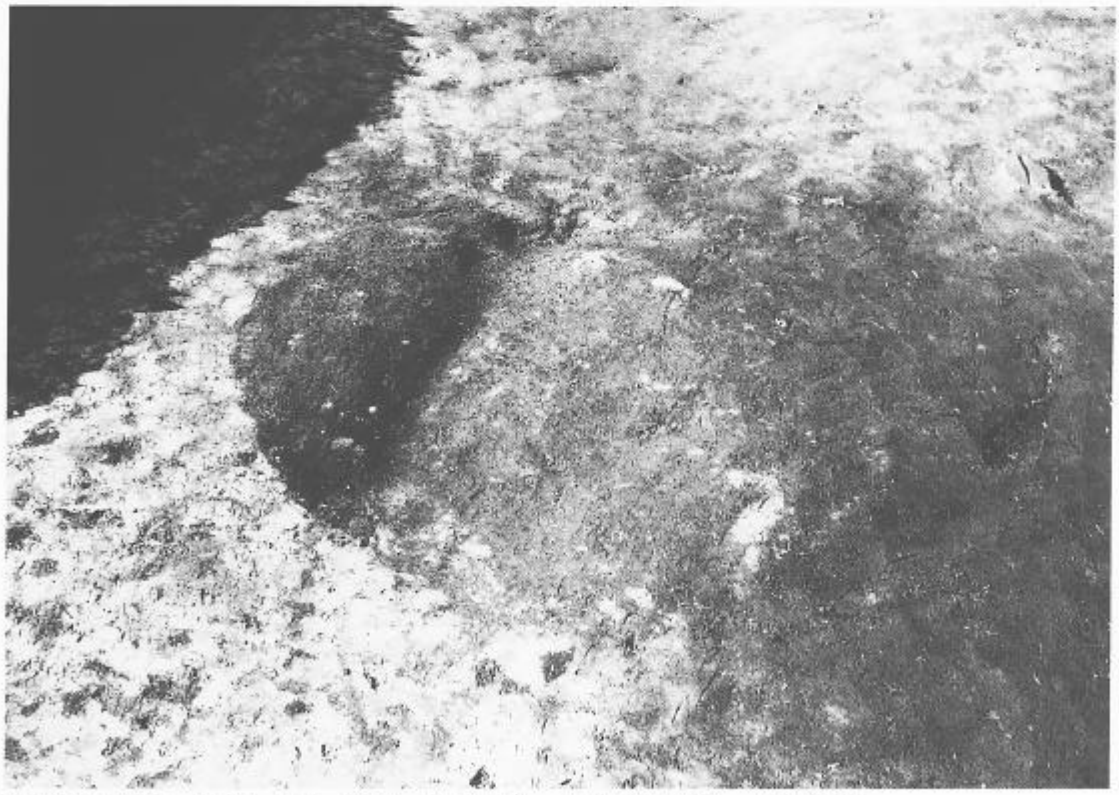


第14図　扇田谷地遺跡　範囲確認調査結果および工事区域内遺跡範囲図

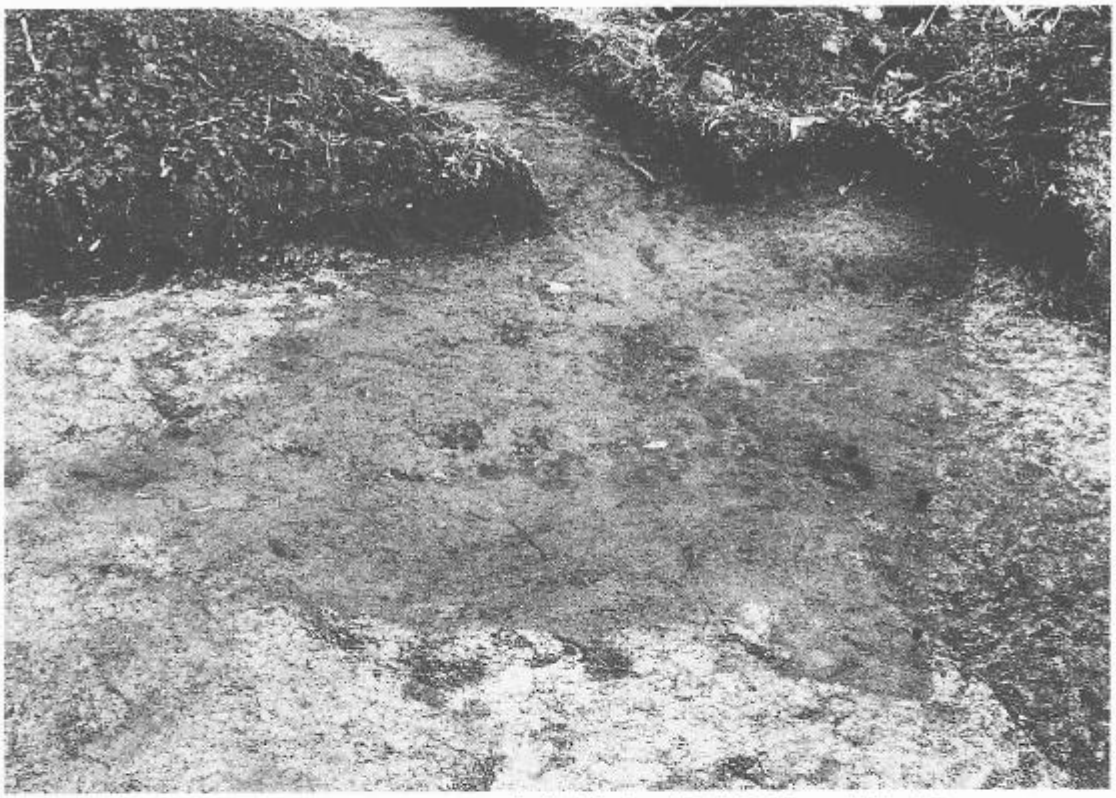
扇田谷地遺跡　道路西側区　全景　（東から）

扇田谷地遺跡　道路東側での作業状況　（西から）

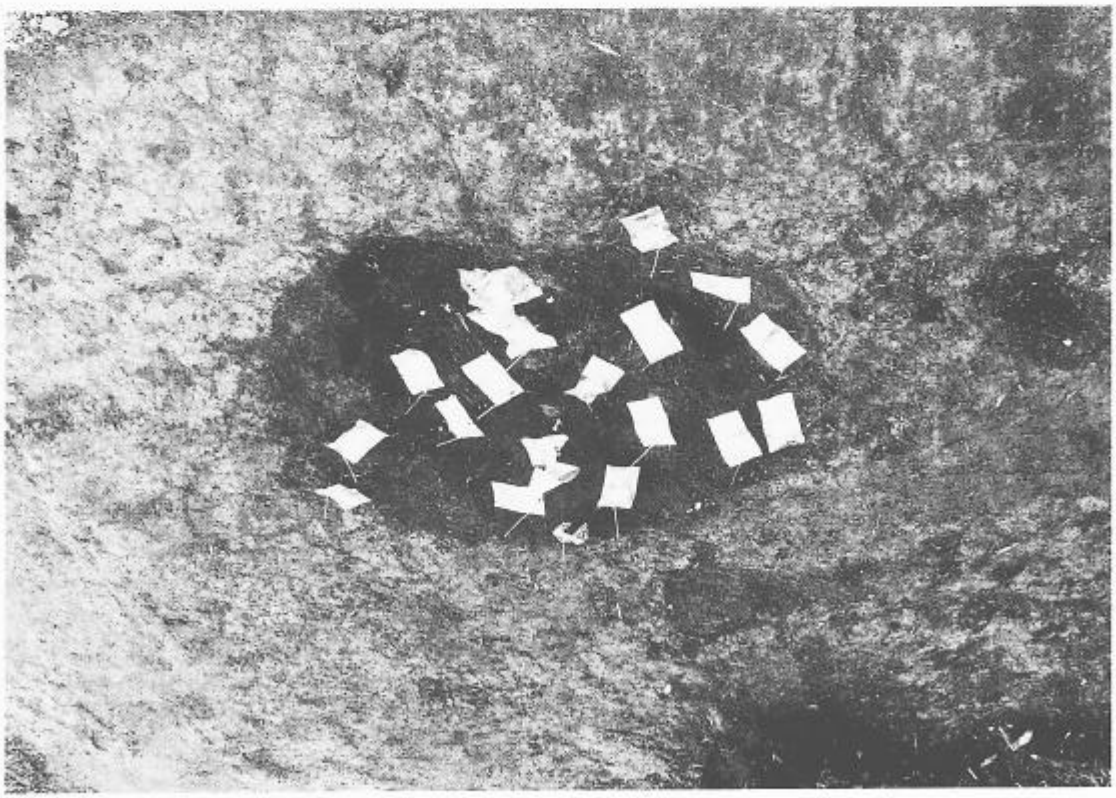
扇田谷地遺跡　Ａトレンチ（No.６～No.７間）　竪穴住居跡　（東から）



扇田谷地遺跡　Ｂトレンチ（No.２～No.３間）　土坑検出状態　（東から）



扇田谷地遺跡　Ｂトレンチ・No.２トレンチ交差地点内　竪穴住居跡　（南から）



扇田谷地遺跡　Ｂトレンチ（No.６～No.７間）　土坑検出状態　（北東から）

４　県道木戸石鷹巣線建設事業

伊勢堂岱（いせどうたい）遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県北秋田郡鷹巣町脇神字伊勢堂岱5-1外

２　範囲確認調査期間　　平成６年11月７日～11月18日

３　範囲確認調査対象面積　　11,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　9,700㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は鷹巣町の南東、秋田内陸縦貫鉄道小ヶ田駅の南東約250m、北緯40°12′02″、東経140°21′04″に位置している。鷹巣町の東西を米代川が流れ、その周辺に広がる鷹巣低地には北側からは標高100～200mの綴子丘陵地が、南側からは標高50m前後の大野台台地が裾野を広げている。遺跡はこの大野台台地の北側先端部にあり標高は44mほどである。遺跡の北側では小猿部川の一支流である湯車川が台地先端部を東側から北側を取り囲むようにして西に流れている。また遺跡の西側は急崖となっていて直下には秋田内陸縦貫鉄道が走っている。調査範囲内のうち西側は標高45mを頂部とし、北側に緩く傾斜する平坦地で、ここには東から沢が入り込んでいる。この平坦地の東側にはさらに北東方向から二つの深い沢が入り込んでいて、舌状に突き出した二つの台地先端部を形成している。

②現況

現況は従来杉林であったが、現在は調査範囲内の立木はすべて伐採されている。

６　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡内の基本的な層序と厚さは、西側平坦部ではⅠ層黒色土（表土、10～20cm）、Ⅱ層黒色土（10～30cm）、Ⅲ層黒色土（20cm）、Ⅳ層黒褐色土（漸移層、10～20cm）、Ⅴ層明褐色砂質粘土層（地山）である。Ⅲ層は縄文時代後期前葉の包含層であり、同期の遺構はⅢ層下部からⅣ層で確認できる。この西側平坦部に東側から入り込む沢は15トレンチ付近を沢頭としていて、この部分に縄文時代後期前葉の捨て場が形成されている。捨て場の広さは４トレンチから５トレンチを含むおよそ500㎡と推定され、Ⅲ層以下に焼土や炭化物を多量に含む黒褐色土として認められ10～40cmの層厚がある。

また配石遺構に使用されている礫の頭部はⅡ層下部で検出される。

東側の舌状に張り出した二つの台地先端部の層序は基本的には西側平坦部と同じであるが場

所によってⅢ層が極めて薄い部分がある。表土から地山までは深い所でおよそ50cmである。遺物は、Ⅲ層の黒色土から縄文時代後期前葉の遺物が出土している。

②検出遺構と出土遺物

遺構は西側平坦部では竪穴住居跡10軒、土坑17基、配石遺構３基、溝２条が検出されている。竪穴住居跡のうち台地西端で検出された１軒は一辺が約６ｍの方形を呈する古代の竪穴住居跡で、他の竪穴住居跡はいずれも縄文時代後期前葉と考えられる直径３～４ｍの円形を呈する住居跡である。

17基の土坑には土壙墓と考えられる配石を伴う直径0.5～1.0mのものや、確認面での直径が３ｍほどの大型の土坑がある。配石遺構では長さ30cmほどの河原石を直線的に配列したものや円形に配列したものなどがある。

これら検出遺構の時期は、既述の古代の竪穴住居跡を除く多くが縄文時代後期前葉の遺構と考えられるが、縄文時代中期末葉の土器も出土していることからこの時期の遺構も含まれるであろう。

二つの舌状台地先端部の遺構は西側の先端部では河原石を利用した２基の配石遺構を、また東側の先端部では竪穴住居跡２軒、土坑２基、配石遺構１基を検出している。

遺物は縄文時代後期前葉を中心とする土器・石器が調査範囲のほぼ全域から出土しており、土器には深鉢形土器・鉢形土器・壺形土器のほか土偶などがあり、石器では三脚石器・石鏃・石斧・石匙などがある。この他古代の須恵器甕や土師器の坏が西側平坦部の西端から出土している。

7　所見

①遺跡の種類

遺跡は縄文時代中期末葉～後期前葉の大規模な集落遺跡で特に後期の前葉期の集落には土坑・土壙墓・配石遺構などが伴うものと考えられる。また西側平坦地の西端には古代の集落の存在も考えられる。さらに舌状の台地先端部でも縄文時代中期末葉～後期前葉の配石遺構などを伴う集落の存在が予想される。

②遺跡の範囲と工事区域

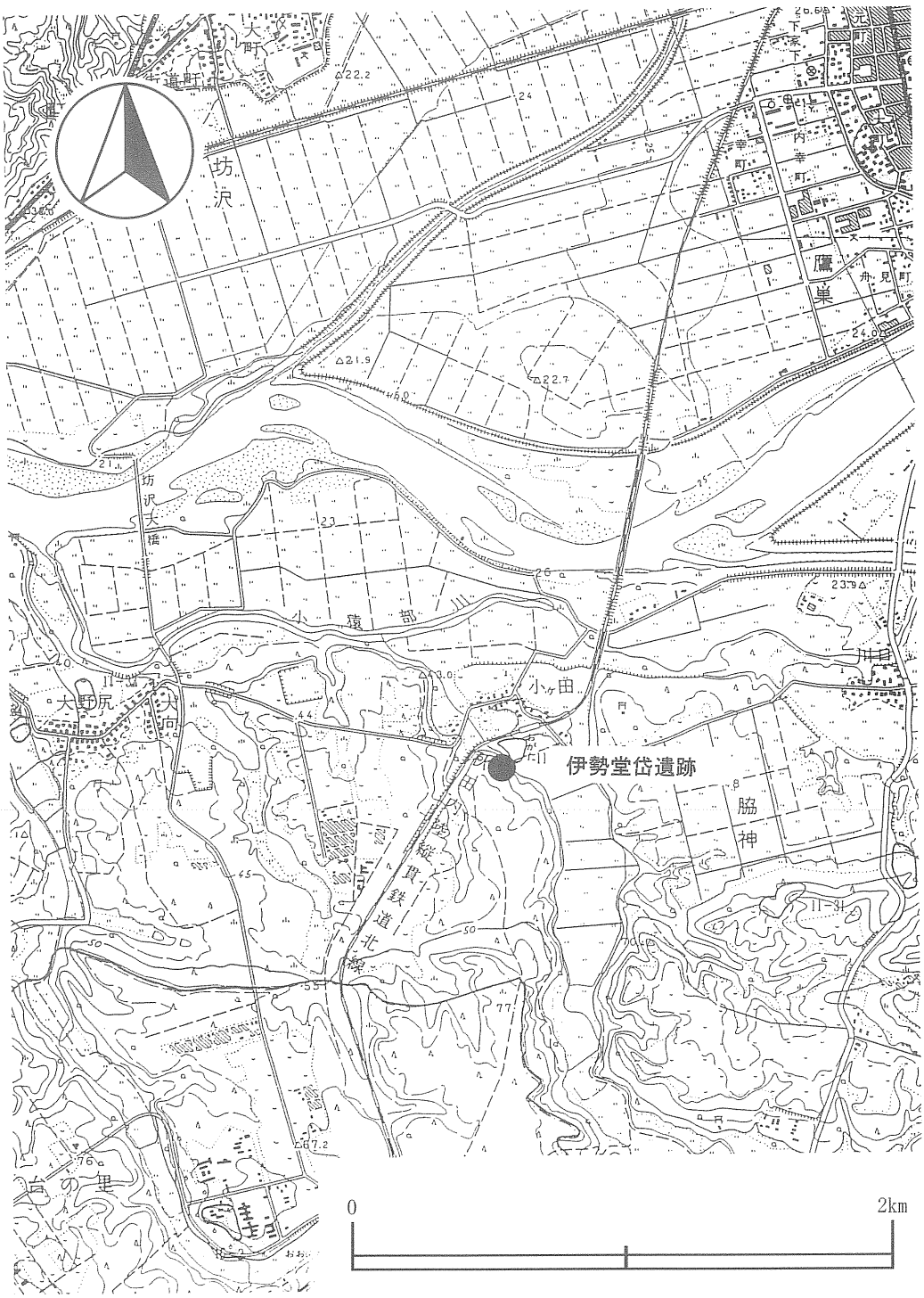
遺跡全体の広がりは、標高45ｍ前後の台地平坦部のおよそ100,000㎡に及ぶものと考えられる。このうち工事区域は遺跡のある台地北端部をほぼ東西に横断することになる。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

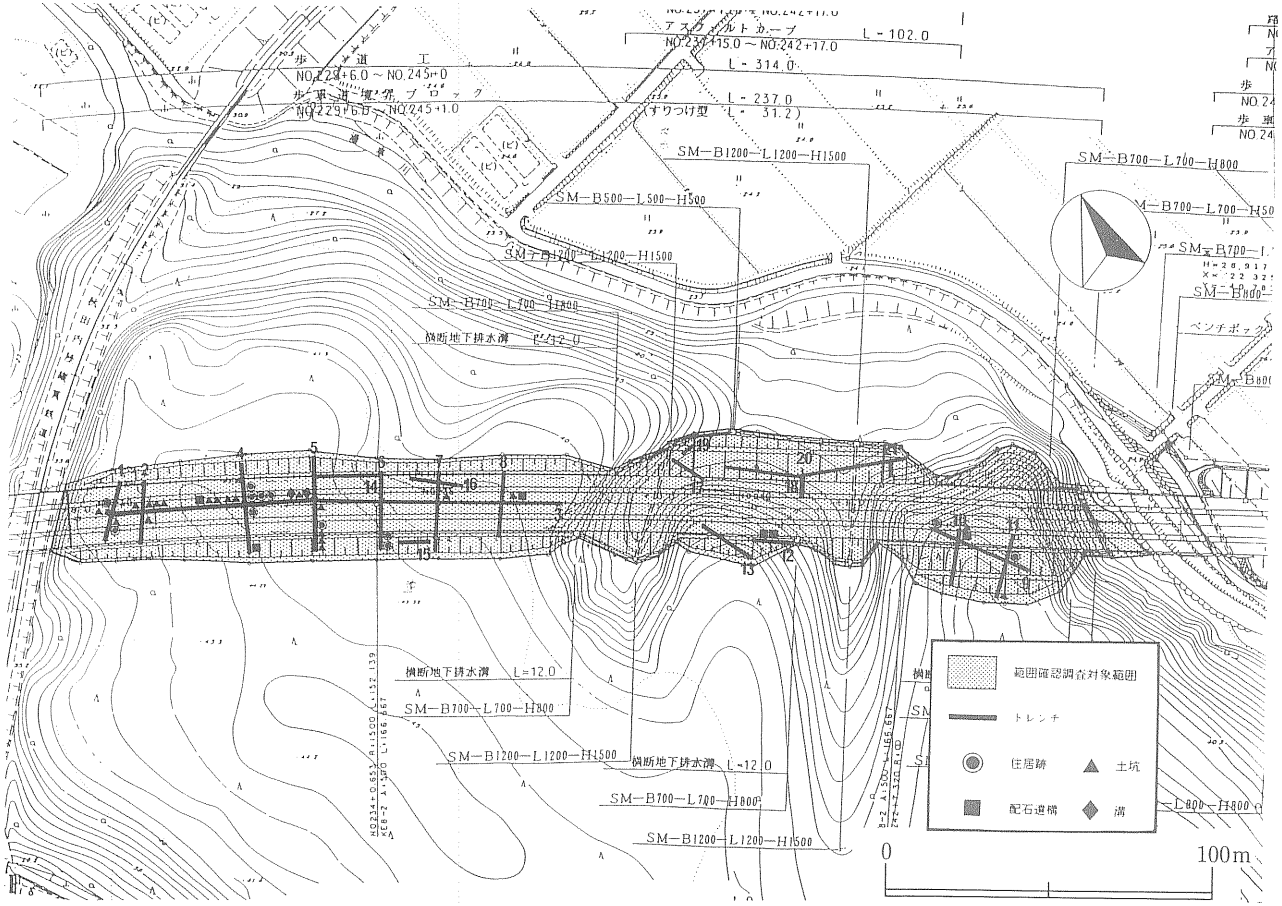
調査によって検出される遺構は、縄文時代中期末葉～後期前葉の竪穴住居跡・土坑・土壙墓・配石遺構など多数の遺構群のほか、古代の竪穴住居跡などがあるものと考えられる。

遺物は遺構と同じ時期のものが出土すると考えられ、特に縄文時代後期前葉の捨て場が存在

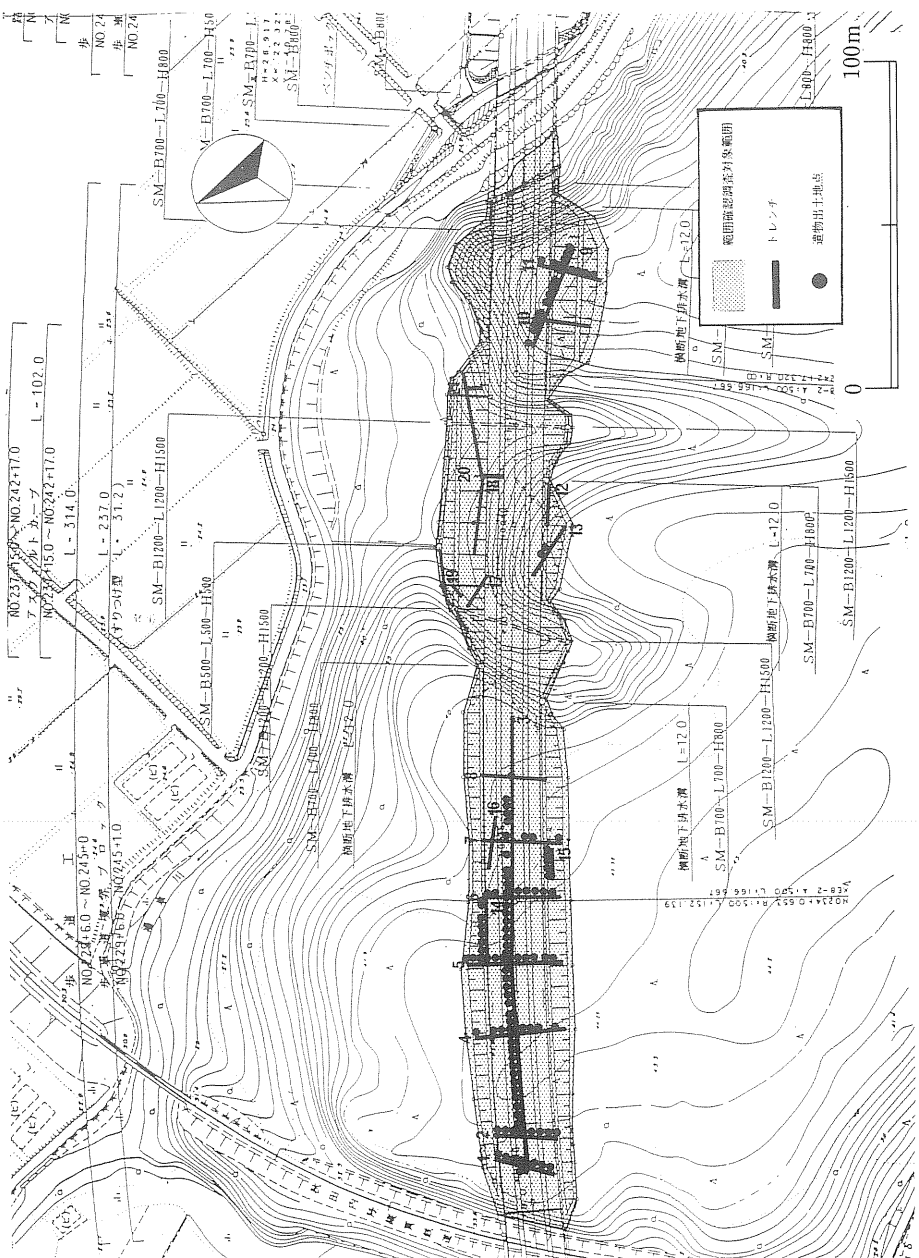
することからこの時期の土器・石器が多量に出土することが予想される。



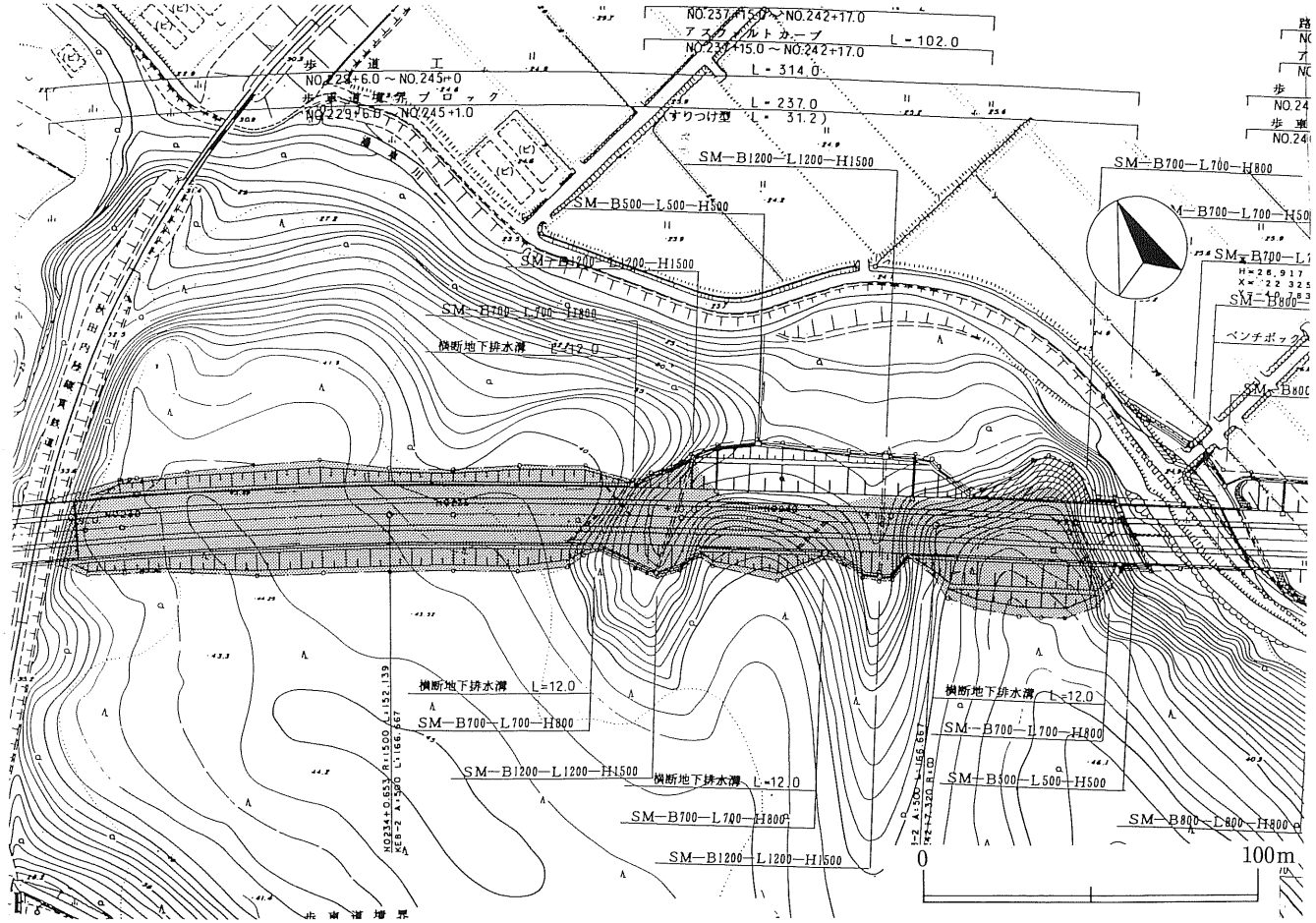
第15図　伊勢堂岱遺跡位置図



第16図　伊勢堂岱遺跡　範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第17図　伊勢堂岱遺跡　範囲確認調査結果図（遺物検出地点）



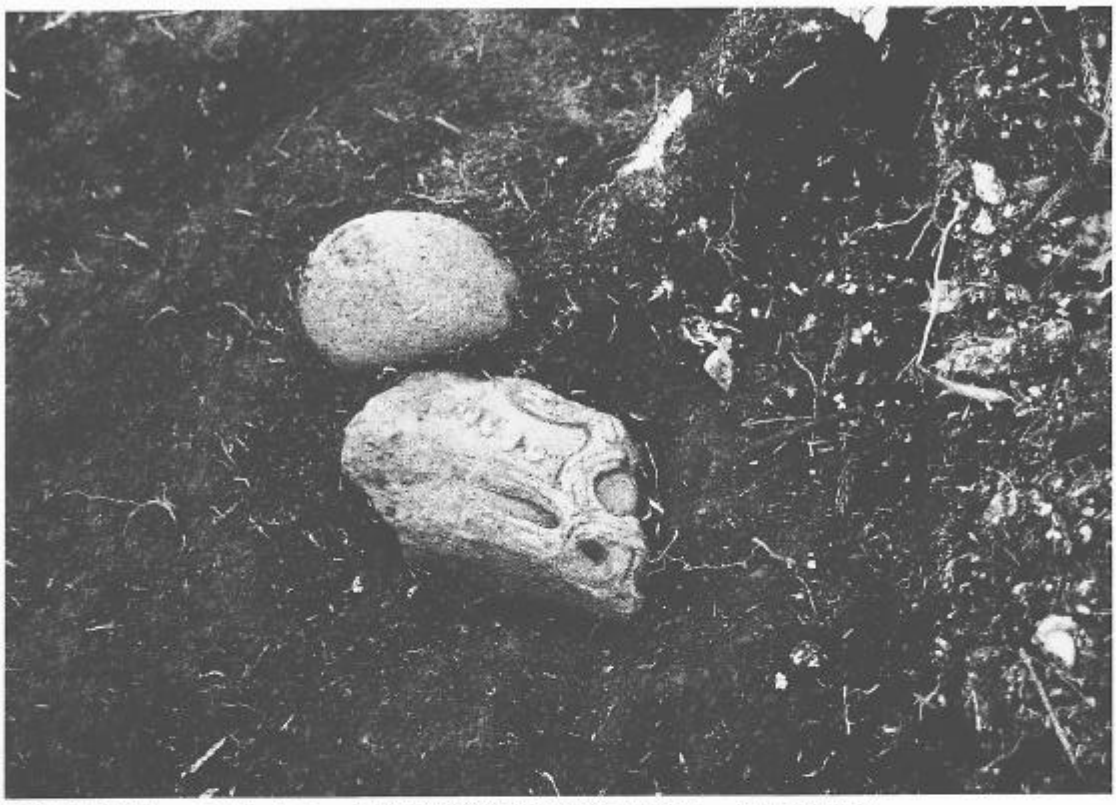
第18図　伊勢堂岱遺跡　工事区域内遺跡範囲図

伊勢堂岱遺跡　西側平坦部　（東から）

伊勢堂岱遺跡　東側の舌状の台地先端部　（西から）

伊勢堂岱遺跡　１トレンチ　平安時代竪穴住居跡　（北東から）

伊勢堂岱遺跡　４トレンチ　配石遺構　（東から）



伊勢堂岱遺跡　9トレンチ　縄文時代後期の土器出土状況　（北西から）

伊勢堂岱遺跡　12トレンチ　配石遺構　（西から）

5　県営ほ場整備事業琴丘地区

泉沢中台遺跡（いずみさわなかだい）

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡琴丘町鹿渡字泉沢中台71外

2　範囲確認調査期間　　平成７年11月７日～12月２日

3　範囲確認調査対象面積　　36,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　15,000㎡

（このうち調査対象範囲は水田以外の8,500㎡である）

5　遺跡の立地と現況

①立地

泉沢中台遺跡は琴丘町の北部、ＪＲ鹿渡駅北方約３㎞に位置し、八郎潟東岸に形成された標高26ｍ前後を測る海成段丘上に立地している。調査地の西側～南側に大小の堤が造成されており、畑地を最高位にして堤に向かって緩やかに傾斜している。西側水田と南側水田の間には小さな沢が入り込み、畑地の北および東側はほ場整備により原地形が大きく改変されている。畑地と水田の比高差は約３ｍである。

②現況

畑地、牧草地、水田である。

6　範囲確認調査の方法

原則として１ｍ幅のトレンチ調査で行った。一段高い畑地部分では基準点Ａをもとにして東西方向に20ｍ間隔のトレンチを設定し、さらにこれに直交させるようにトレンチを設定した。水田の部分も畑地からのトレンチを延長するようにしたが、南西側については沢の地形に沿わせて設定した。大部分は人手で掘り、粘土質で水分を多く含んでいる所は重機で表土除去を行い、地山面と壁面を人手で精査した。出土した遺物はトータルステーションで基準点からの位置を記録しながら取り上げた。掘り上げたトレンチは遺構の有無、土層の観察、遺物の取り上げ終了後全て埋め戻した。№18トレンチでは古代の土器とともに鉄滓が多量に出土したため、遺物を取り上げないで埋め戻した。トレンチの総延長は2,060ｍ、内訳は、水田部分1,240ｍ、その他820ｍである。

7　範囲確認調査の結果

(1) 層序

畑地、牧草地、水田の３ヶ所で違いが見られる。

畑地は№５トレンチ内でⅠ層耕作土（層厚５～10㎝）、Ⅱ層暗～黒褐色土（層厚10～20㎝）、

Ⅲ層褐色土（層厚10～15cm）地山漸移層、Ⅳ層地山土である。畑耕作によりⅡ・Ⅲ層を欠いている所もある。

牧草地は昭和40年代半ばに周辺の水田の区画整理を行った際に水田とされていたらしい。No.３トレンチ内でⅠ層耕作土（層厚５cm～20cm）、Ⅱ層地山盛り土（層厚０～30cm）、Ⅲ層黒～暗褐色土（層厚０～30cm）、Ⅳ層褐色土（層厚０～20cm）、Ⅴ層地山土である。水田用水路の断面が、Ⅲ層下部で確認できたことから、これと同一のレベルで水田が耕作されていたものと推測される。原地形で高い部分の土が削られ低い所に盛られたため、畑寄りではⅡ～Ⅳ層が存在せず、大小のロームブロックを混入したⅠ層の堆積が見られるだけである。また部分的にⅣ層土に地山塊を含む単一層で構成される所があるが地山面はほとんど削平されていない。

水田はNo.１トレンチ内でⅠ層耕作土（層厚15～20cm）、Ⅱ層暗～黒褐色土（層厚０～30cm）、Ⅲ層褐色土（層厚０～20cm）、Ⅳ層地山土となっている。畑寄りではかつての区画整理による削平を受けており、地山土をそのまま耕作土として利用している。なお水田の堆積土には全般にわたって長年の水田耕作の影響による土色、土質の変化が認められる。

(2) 検出遺構と遺物

①検出遺構

畑及び牧草地から検出した遺構は以下のとおりである。

トレンチNo.	検出遺構
1	溝跡１
2	住居跡１、土坑１
3	焼土１
4	溝跡１
5	溝跡３
１８	溝跡１
２０	住居跡１、溝跡１
２５	住居跡１

No.５トレンチ内でほぼ南北方向に伸びる溝跡が３条並行して存在する。最も東側の溝跡はNo.５トレンチから約20m南側のNo.１トレンチ内でも検出されている。またNo.４トレンチ北側で東西方向、No.18トレンチ北側で北東－南西方向、No.20トレンチ中央で南北方向に伸びる溝跡をそれぞれ1条ずつ確認している。

No.４トレンチの溝跡は幅約40cm、覆土は黒～暗褐色を呈し、その他は幅約20cm、覆土は暗褐～褐色を呈している。またNo.３トレンチ内で径40cm前後の範囲で地山面が焼土化した部分が認められ、No.１とNo.５トレンチ間に入れた２m四方トレンチ内でも地山面が若干盛り上がり、そこが焼土化している。No.25トレンチでは覆土に焼土ブロックを多く含む円形のプランが確認され、土師器片が出土している。No.20トレンチ東側では焼土粒子を含む黒褐色土の落ち込みが確認され、規模・形状から竪穴住居跡と思われる。No.２トレンチ中央からも同様の竪穴住居跡が検出されている。

水田では幅約30cmの溝状遺構が検出したが、旧水田耕作時に水路とされた痕跡である可能性が高い。その他水田内からは遺構は検出されなかった。

②出土遺物

畑からは土師器、須恵器が主に出土し、それらに混じり近世末～近現代の陶磁器が出土している。№18トレンチ南側で土師器に混じり、椀形滓をはじめ多数の鉄滓が出土している。鉄滓は畑内を通る農道の地表面にも多数散布している。水田からは土師器、須恵器片が主として出土し、それらに混じって縄文土器片、磨製石斧、石鏃、石匙、フレーク、近世末～近現代の陶磁器片が散布している。遺物はⅡ層中から出土しているものが多く、地山土上面で出土したものは少なかった。

8　所見

①遺跡の種類

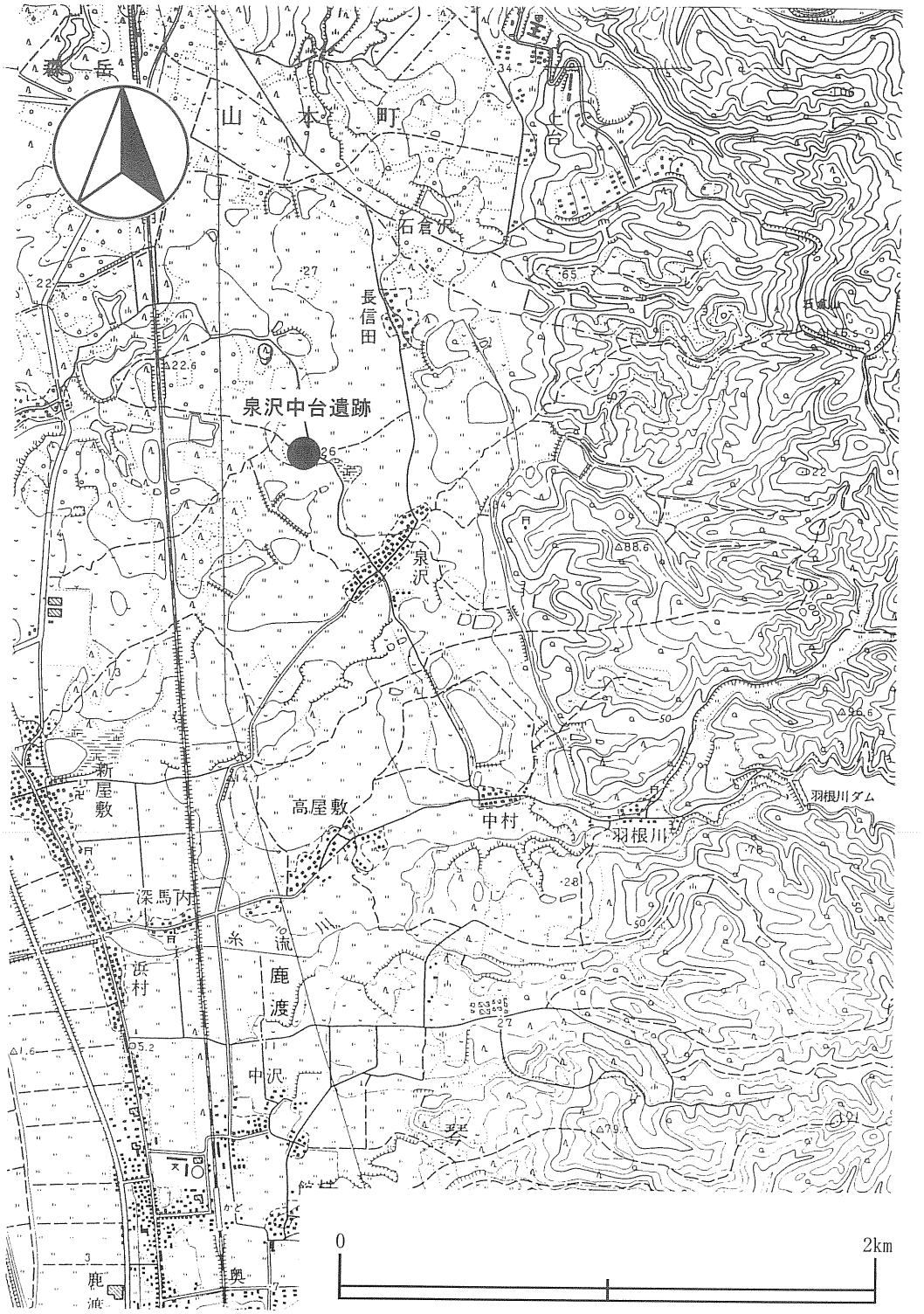
古代の製鉄関連遺跡と縄文時代の遺物散布地である。

②遺跡の範囲と工事区域

畑寄りおよび南西側に入り込んだ沢に作られた水田からは遺構・遺物ともに検出されなかったため、遺跡の範囲はこれらを除いた部分である。工事区域内遺跡面積のうち水田部分以外の8,500㎡が調査対象範囲である。（残りは盛り土）

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

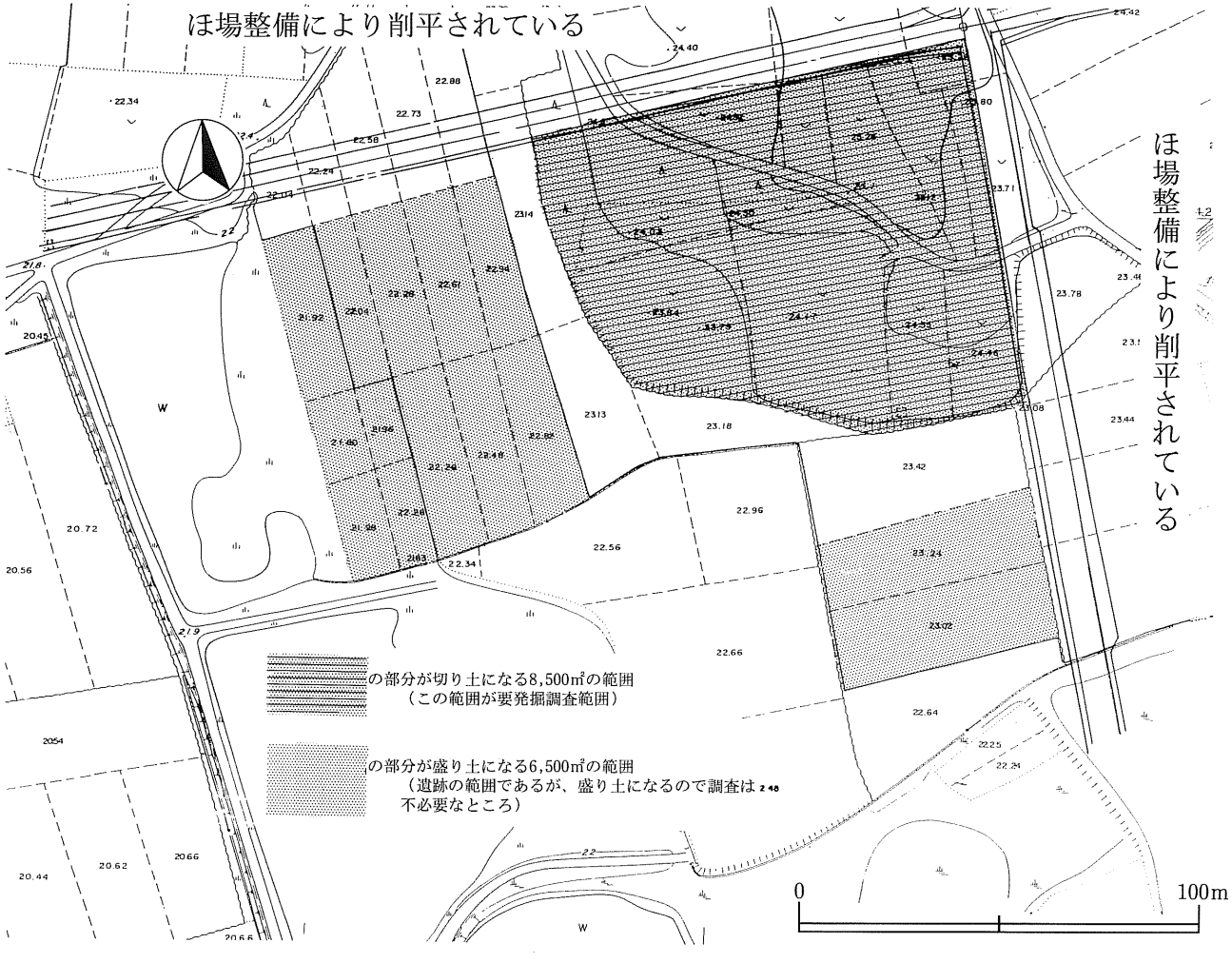
鉄滓が多数出土していること、さらに焼土遺構が確認されていることから古代の製鉄炉あるいは工房跡といった製鉄関連遺構が検出される可能性が高く、これらに伴う住居跡等が検出されることが考えられる。またフイゴ羽口、鉄製品など遺構に伴う遺物が出土することが予想される。



第19図　泉沢中台遺跡位置図

第20図　泉沢中台遺跡　範囲確認調査結果図　（遺構検出地点）

第21図　泉沢中台遺跡　範囲確認調査結果図　（遺物検出地点）



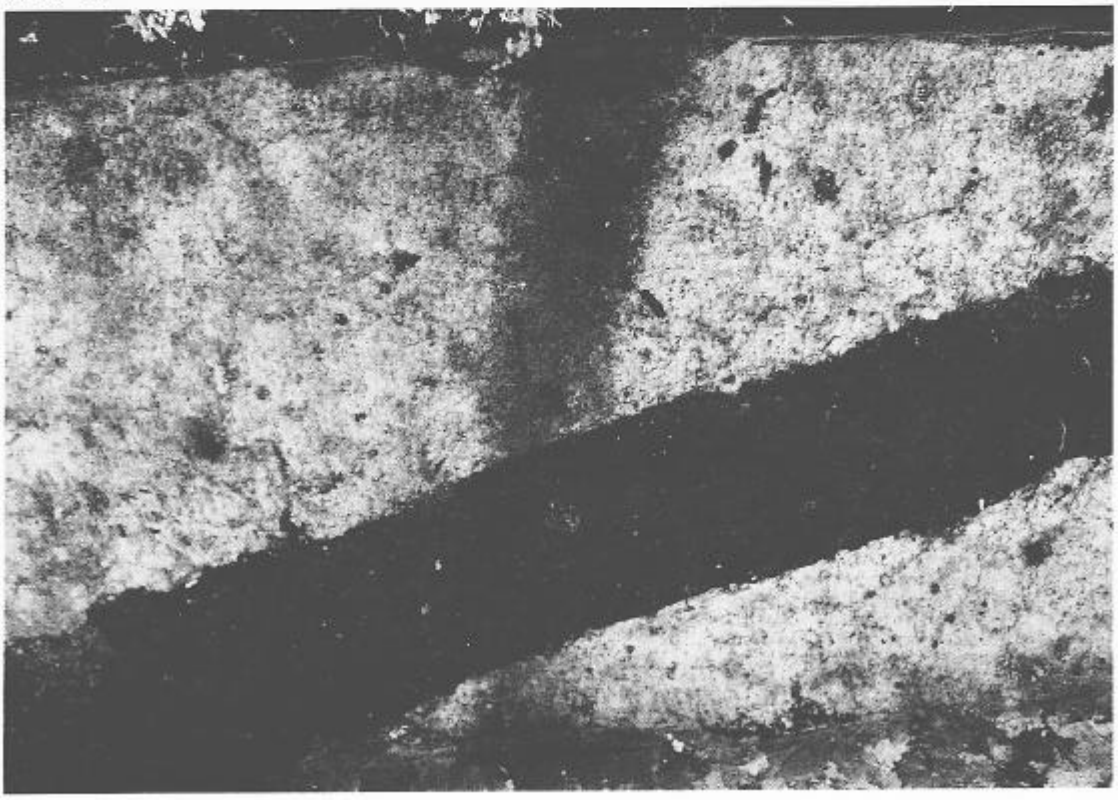
第22図　泉沢中台遺跡　工事区域内遺跡範囲図

泉沢中台遺跡　遠景　（東から）

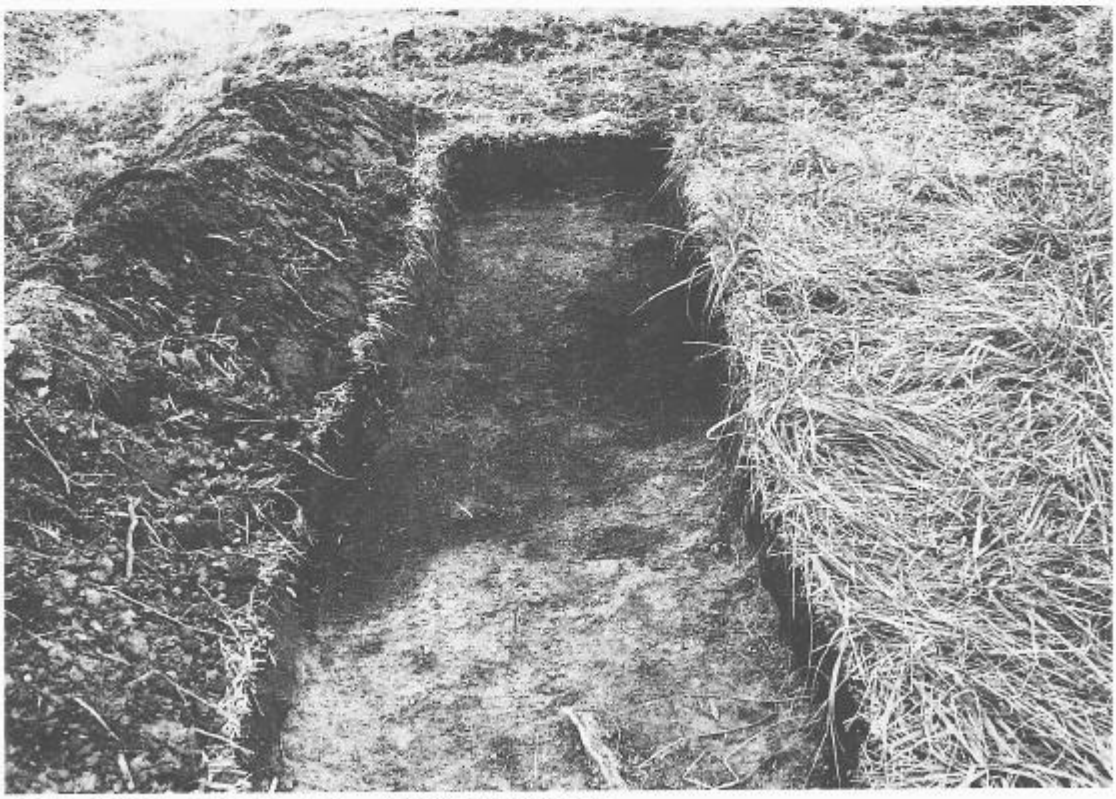
泉沢中台遺跡　No.2トレンチ　竪穴住居跡検出状況　（南から）

泉沢中台遺跡　No.5トレンチ　溝跡検出状況　（西から）

（南から）



泉沢中台遺跡　№.6トレンチ　ビニールハウス付近の土層　（北から）



泉沢中台遺跡　№.25トレンチ　竪穴住居跡検出状況